

地域福祉に関する活動を行う方の意識調査

結果報告書

令和4年1月

社会福祉法人 池田市社会福祉協議会

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果	2
問1 あなたのことについて	3
問2 従事している活動は、民生委員・児童委員と地区福祉委員どちらか	5
問3 民生委員・児童委員、地区福祉委員会活動の経験年数	6
問4 自治会・町内会に加入しているか	7
問5 民生委員・児童委員、地区福祉委員以外の地域活動への参加状況	8
問6 民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動を始めた動機	9
問7 民生委員・児童委員、地区福祉委員になった感想	11
問8 地区福祉委員会はどのような活動をする団体だと思うか	12
問9 民生委員・児童委員の活動で大変なこと、困っていること	13
問10 民生委員・児童委員の活動をしやすくするには	14
問11 地区福祉委員会の活動で大変なこと、困っていること	15
問12 地区福祉委員会の活動をしやすくするには	17
問13 担当地域の中で感じる課題	18
問14 担当地域の中で気にかかる人、見守り支援が必要な人	19
問15 地域住民の困りごとの相談を受けたことがあるか	20
問16 困りごとを抱えている住民をどのような機会に把握するか	21
問17 行政と社協の役割として重要なこと	22
問18 地域づくりについての意見や要望（自由記述）	24
3. 「民生委員・児童委員のみ」「地区福祉委員のみ」「兼務」 各回答比較（クロス集計）	36
資料 調査票	49

1. 調査の概要

◆調査の目的

本調査は、第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画の策定にあたり、民生委員児童委員、地区福祉委員の皆様のご意見を計画に反映させることを目的としています。

◆調査対象

池田市民生委員・児童委員

池田市内の地区福祉委員会委員

◆調査方法

アンケート調査（調査票を手渡しで配布し、郵送で回収）

◆調査期間

令和3年9月8日（水）～令和3年10月29日（金）

◆回収状況

配布数 622（民生委員・児童委員 175、地区福祉委員 447）

有効回収数 447

有効回収率 71.9%

◆調査結果の見方

* 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。

このため、百分率の合計が100%にならない場合があります。

* 基数となる実数は「n=」として掲載し、各表およびグラフの比率はnを100%として算出しています。

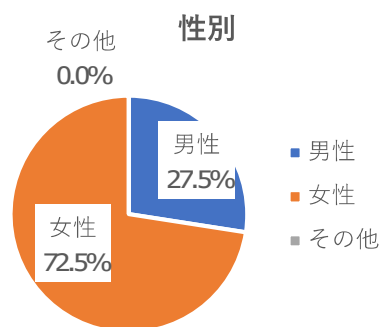
* 各設問の最後に「複数回答」記載している問は、1人の回答者が複数の回答を選んでもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。

2. 調査結果

問1 あなたのことについて

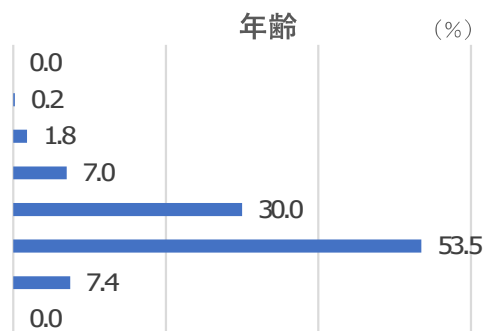
(1) 性別

		人数	パーセント
1	男性	117	27.5
2	女性	309	72.5
3	その他	0	0.0
有効回答合計		426	100.0
無回答		21	
総合計		447	



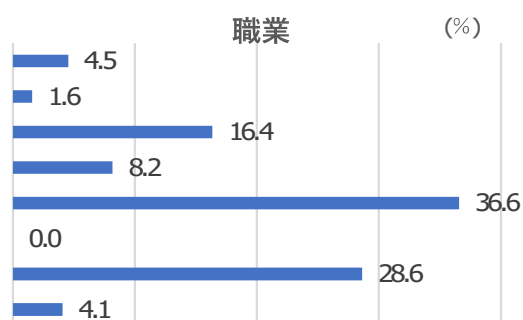
(2) 年齢

		人数	パーセント
1	20歳代	0	0.0
2	30歳代	1	0.2
3	40歳代	8	1.8
4	50歳代	31	7.0
5	60歳代	133	30.0
6	70歳代	237	53.5
7	80歳代	33	7.4
8	90歳代以上	0	0.0
有効回答合計		443	100.0
無回答		4	
総合計		447	



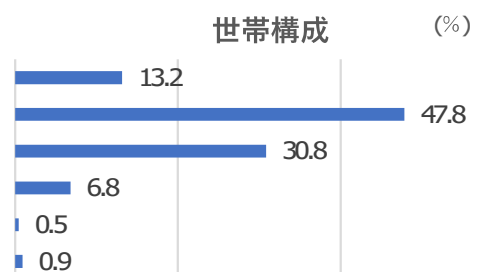
(3) 職業

		人数	パーセント
1	正規の職員・従業員	20	4.5
2	契約社員や派遣社員	7	1.6
3	パート・アルバイト	72	16.4
4	自営業およびその家族従業員	36	8.2
5	家事専業	161	36.6
6	学生	0	0.0
7	無職	126	28.6
8	その他	18	4.1
有効回答合計		440	100.0
無回答		7	
総合計		447	

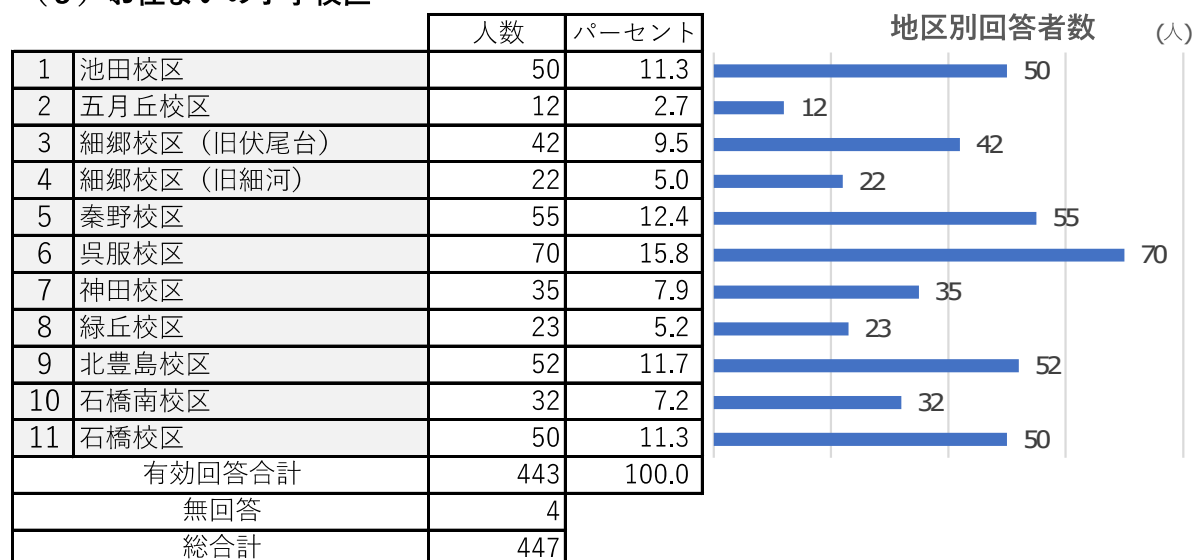


(4) 世帯構成

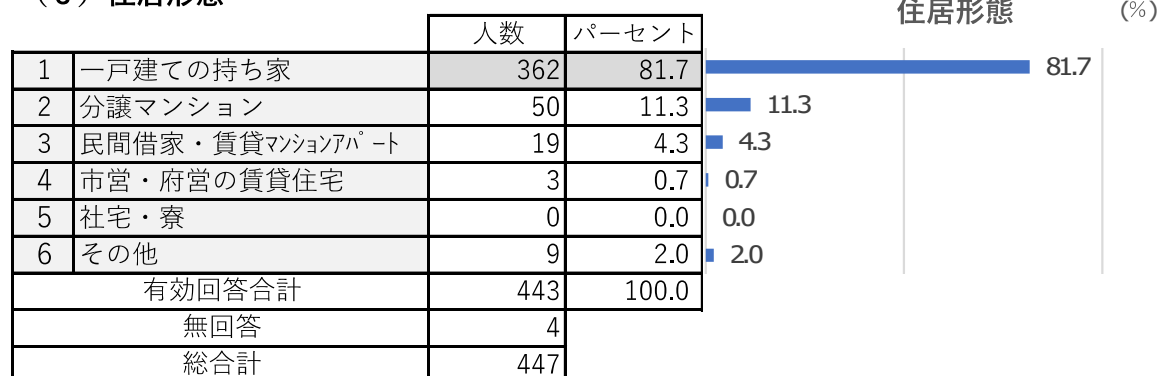
		人数	パーセント
1	ひとり暮らし	58	13.2
2	夫婦のみ	211	47.8
3	二世帯（親と子）	136	30.8
4	三世帯（親と子と孫）	30	6.8
5	兄弟・姉妹	2	0.5
6	その他	4	0.9
有効回答合計		441	100.0
無回答		6	
総合計		447	



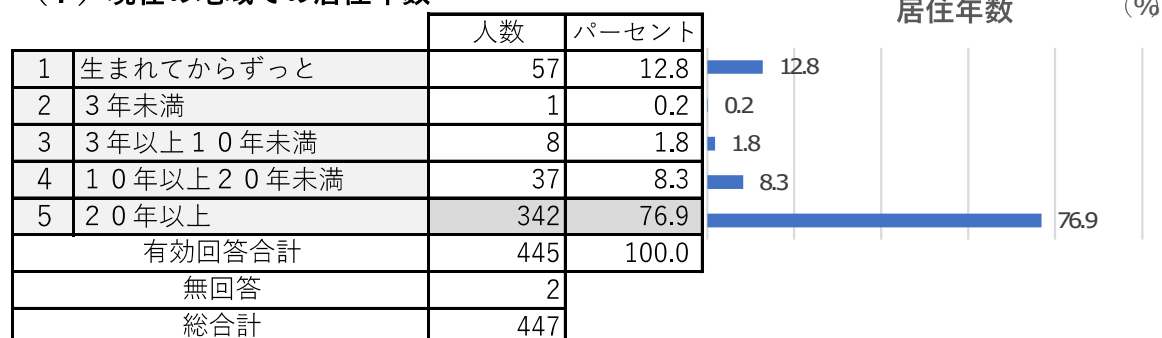
(5) お住まいの小学校区



(6) 住居形態



(7) 現在の地域での居住年数



調査に回答いただいた方（民生委員・児童委員、地区福祉委員）の性別は、「男性」が27.5%に対し、「女性」が2倍以上の72.5%になっています。

年齢は、「70歳代」が最も多く53.5%、次いで「60歳代」の30%とあわせて8割強を占めています。

職業では、「家事専業」が36.6%、次いで「無職」28.6%になっています。

家族構成は、「夫婦のみ」が47.8%と全体の半数を占め、次いで「二世帯（親と子）」の30.8%とあわせて8割に達しています。

地区別では、回答者が多かったのは「呉服地区」70人(15.8%)、「秦野地区」55人(12.4%)、逆に少なかったのは「五月丘地区」12人(2.7%)となっています。

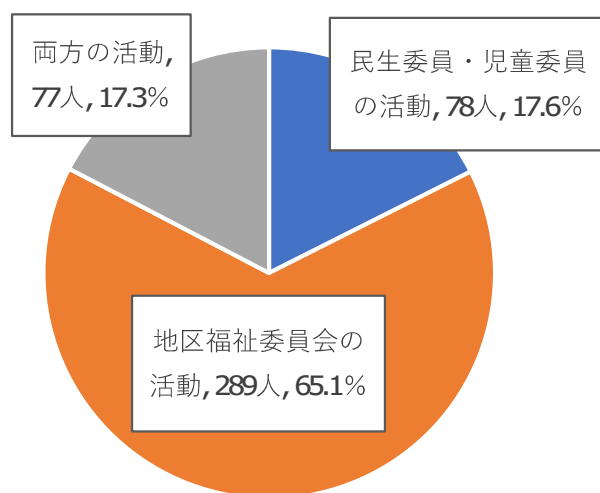
住居形態は、「一戸建ての持ち家」が81.7%で大部分を占め、「分譲マンション」の11.3%とあわせて9割強が持ち家に居住しています。

居住年数は、「20年以上」が76.9%を占め、「生まれてからずっと」の12.8%とあわせて9割に達しています。

問2 従事している活動は、民生委員・児童委員と地区福祉委員会のどちらか。

		人数	パーセント
1	民生委員・児童委員の活動	78	17.6
2	地区福祉委員会の活動	289	65.1
3	両方の活動	77	17.3
有効回答合計		444	100.0
無回答		3	
総合計		447	

従事している活動



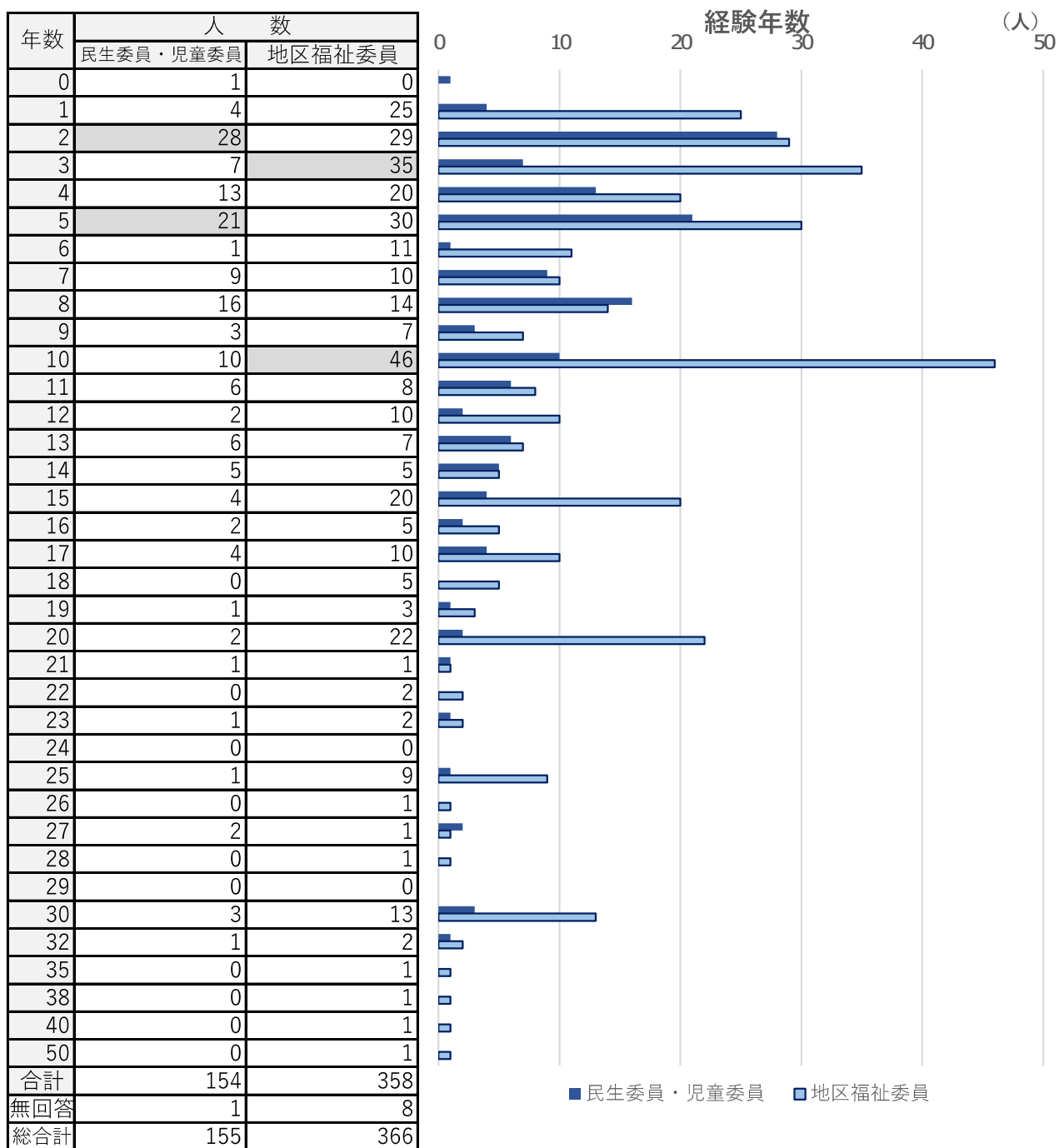
民生委員・児童委員の回答者155人のうち、「民生委員・児童委員のみに従事」している人は78人、「地区福祉委員と兼務」している人は77人で、民生委員・児童委員のうち約半数が地区福祉委員と兼務していることがわかります。

地区福祉委員の回答者366人のうち、「地区福祉委員のみに従事」している人は289人で、地区福祉委員のうち5人に1人は、民生委員・児童委員と兼務していることがわかります。

今回の調査では、民生委員・児童委員（兼務も含む）と地区福祉委員（兼務を含まない）の比率は、およそ1：2であることがわかります。

問3 民生委員・児童委員、地区福祉委員会活動の経験年数

	人数	最短	最長	平均値
民生委員・児童委員	155	0年	32年	8.2年
地区福祉委員	358	1年	50年	10.4年



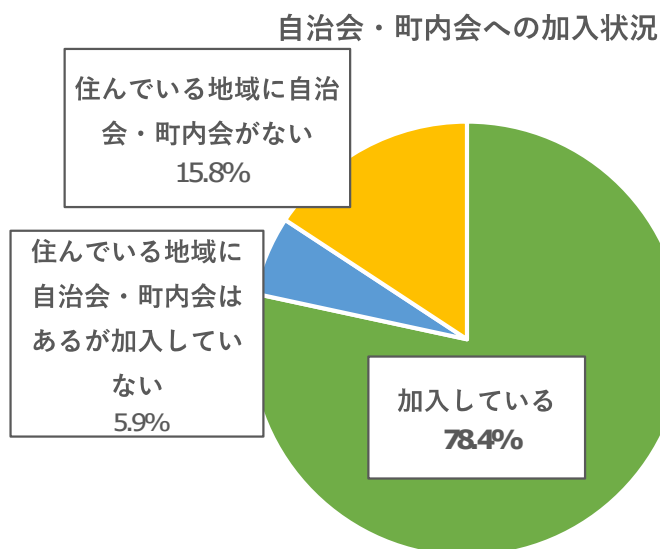
民生委員・児童委員は、3年に1度の一斉改選があるため、2年おきに経験年数の人数が多い年があります。

地区福祉委員は2年任期ではあるものの、一斉改選ではないため、毎年一定数の新たな委員が加入していることがわかります。

民生委員・児童委員と地区福祉委員を比較すると、地区福祉委員には定年制がないため、長く活動している人が多い傾向があることがわかります。

問4 自治会・町内会に加入しているか。

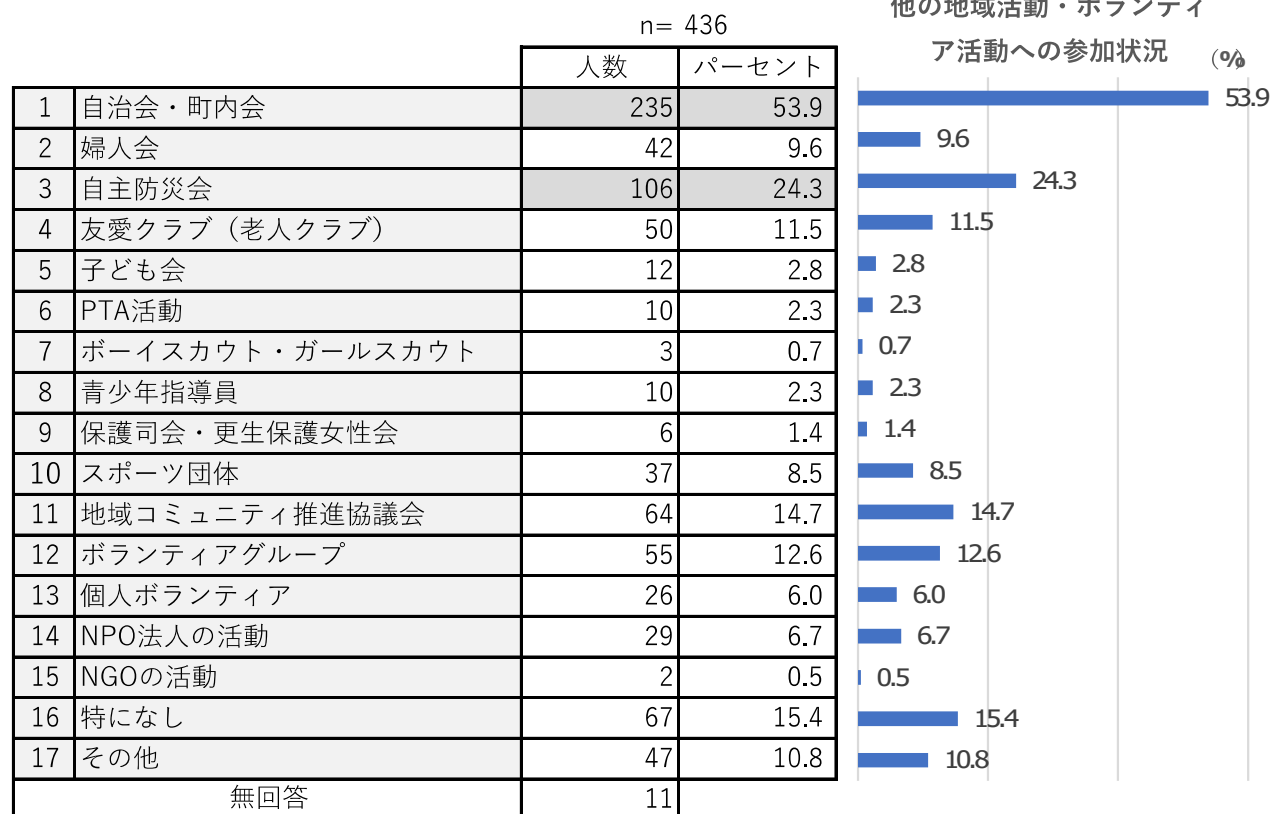
		人数	パーセント
1	加入している	348	78.4
2	住んでいる地域に自治会・町内会はあるが加入していない	26	5.9
3	住んでいる地域に自治会・町内会がない	70	15.8
有効回答合計		444	100.0
無回答		3	
総合計		447	



回答者の78.4%が自治会・町内会に加入しています。池田市民全体の自治会・町内会への加入率が30%前後であることからかなり高いことがわかります。

民生委員・児童委員や地区福祉委員は、自治会・町内会から選出されることも多いことや、地域に長く住んでおり、もともと地域への関心が高い方々であることが考えられます。

問5 民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動以外、現在どのような地域活動・ボランティア活動に参加しているか。〔複数回答〕



17. その他

エイフボランティアネットワーク (7)

登校見守り (3)

ファミリーサポートセンター援助会員 (2)

学校運営協議会 (2)

子ども食堂 (2)

学校体育施設開放委員会

農業実行組合

趣味の活動

公益活動促進協議会認定団体役員

人権

高齢者部会

地区スポーツ振興会

友好協会

COOPを通してボランティア

消防団

認知症カフェ

私立幼稚園理事

オンラインで不登校支援

地域避難支援

地域パトロール

商店会

高齢者の街かどサロンで歌のボランティア

地域安全委員

少年補導員

マンション修繕委員

地域サロン

障がい者団体

マンション管理組合役員

墓地管理運営委員会

高齢者地域送迎サービス

マンションのコミュニティ

地域子育てラ・クーダ

キッズ

ふれあいサロン

回答者の半数以上53.9%は「自治会・町内会」の活動をしており、次いで「自主防災会」(24.3%)の活動をしている人が多くなっています。その他、「地域コミュニティ推進協議会」(14.7%)、「ボランティア活動」(12.6%)にも一定数は参加しており、多くの人が民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動以外にも複数の地域活動、ボランティア活動に参加していることがわかります。

問6 民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動を始めた動機は何か。
両方の活動をされている方は、それぞれに回答。

(民生委員・児童委員)

		人数	パーセント	活動を始めた動機 (%)
1	地域や他者のために役に立ちたいから	22	14.8	14.8
2	自分の能力や経験を生かしたいから	2	1.3	1.3
3	生きがいにしたいから	1	0.7	0.7
4	余暇を有効に使いたいから	1	0.7	0.7
5	活動に興味があったから	2	1.3	1.3
6	福祉問題が身近にあったから	0	0.0	0.0
7	人からすすめられて	22	14.8	14.8
8	自治会や関係団体で選ばれたから	28	18.8	18.8
9	頼まれて断れなかったから	63	42.3	42.3
10	ただなんとなく	0	0.0	0.0
11	以前、地域の人にお世話になったから	2	1.3	1.3
12	今後、地域の人にお世話になるかもしれないから	3	2.0	2.0
13	その他	3	2.0	2.0
合計		149	100.0	
無回答・システムエラー		6		
総合計		155		

13. その他

人にたのまれたから
自分の勉強になる
街の開発発展に伴う地域作りの中でたのまれた

民生委員・児童委員の場合、活動を始めた動機に42.3%の人が「頼まれて断れなかったから」と回答しており、次いで「自治会や関係団体で選ばれたから」が18.8%とあわせて半数以上の人が、自ら望んで活動をはじめたわけではなく、受動的な活動のはじまりであることがわかります。民生委員・児童委員の選出方法が自治会推薦など他薦を基本としていることが影響していると考えられます。

一方、「地域や他者のために役に立ちたいから」という回答も14.8%あり、選ばれ方にかかわらず肯定的に捉えている人も一定数いることがわかります。

(地区福祉委員)

選択肢		人数	パーセント	活動を始めた動機 (%)	
1	地域や他者のために役に立ちたいから	56	17.1	17.1	
2	自分の能力や経験を生かしたいから	3	0.9	0.9	
3	生きがいにしたいから	1	0.3	0.3	
4	余暇を有効に使いたいから	8	2.4	2.4	
5	活動に興味があったから	11	3.4	3.4	
6	福祉問題が身近にあったから	11	3.4	3.4	
7	人からすすめられて	67	20.4	20.4	
8	自治会や関係団体で選ばれたから	39	11.9	11.9	
9	頼まれて断れなかったから	93	28.4	28.4	
10	ただなんとなく	5	1.5	1.5	
11	以前、地域の人にお世話になったから	9	2.7	2.7	
12	今後、地域の人にお世話になるかもしれないから	9	2.7	2.7	
13	その他	16	4.9	4.9	
	合計	328	100.0		
	無回答・システムエラー	38			
		366			

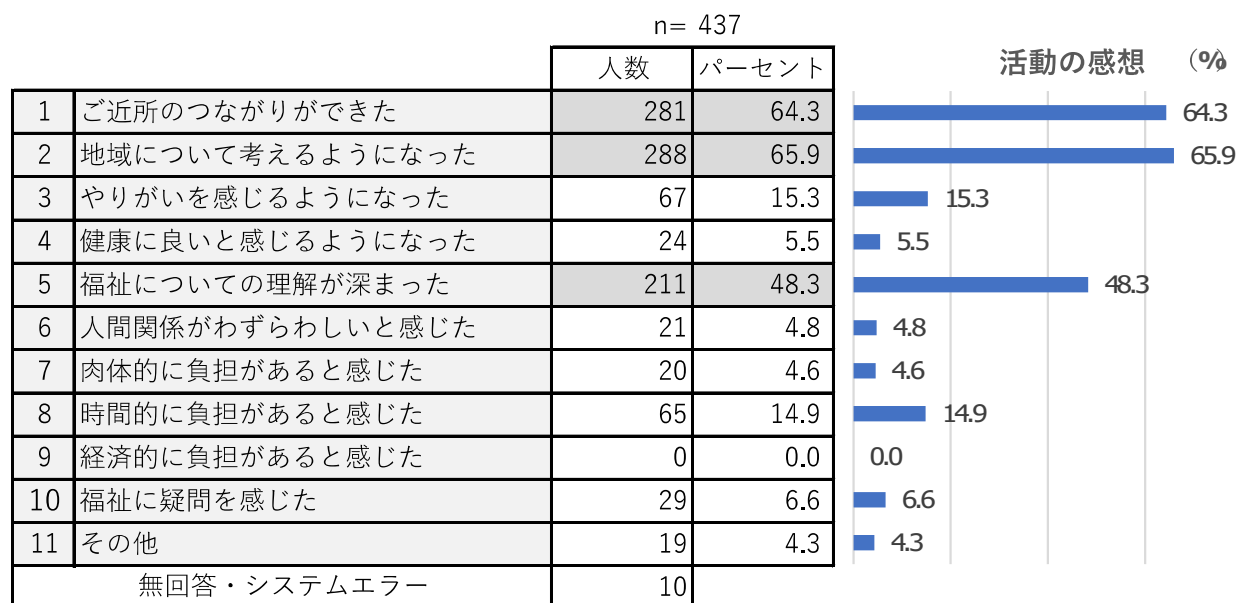
13. その他

たのまれて母もしていたから
 初めは頼まれて参加する事にしたが、何かお役に立てればと
 民生児童委員になった時に福祉委員の活動も兼ねるように言われた。
 行事に参加するうちにすすめられる
 断れなかった訳ではないが前任者から頼まれた
 自治会の会長さんにすすめられた
 民生委員定年の後福祉続行
 地域の中で知人を作りたかったから
 お隣りの高齢の方に誘われたから
 自分の勉強になる
 地区福祉の仕事をしておられる方のお役に立ちたいから
 街の開発発展に伴う地域作りの中でたのまれた
 活動の参加で地域の様子を知りたかった。
 ボランティアに参加したら必然的に福祉委員会に入らないといけないと後から云われて、致し方無く…

地区福祉委員の場合も、民生委員・児童委員の場合と同じく「頼まれて断れなかったから」が28.4%で一番多くなっていますが、割合としては少なく、次いで「人からすすめられて」が20.4%、「地域や他者のために役に立ちたいから」が17.1%と続いています。

地区福祉委員の場合、人に誘われたり、自らやってみたいと思えば、選考委員会などを経ることなく地区福祉委員になることができる場合が多く、民生委員・児童委員と比較して門戸が広いことが動機に影響していることがわかります。

問7 民生委員・児童委員、地区福祉委員になった感想は。〔複数回答〕



11. その他

地区内に民生委員引継ぎの選出作業に伴う精神的負担が大きすぎる。なり手がいない上に、高齢化に伴う問題は増加の一途。

会社員には負担がある

あまり情報が入ってこない為、全体の動きが見えない。閉鎖的な印象しかない、若い世代が居ない？

内情が理解できた

いいかげんな感じ

住民の民度が低いと感じる。地域社会の問題か？

行政との関わり 特に個人情報が多い

知り合いが増えた（２）

精神的に負担があると感じる（２）

福祉委員が福祉をするのではなく住宅全体でとなり近所のことに関心をもたなくてはいけないと思う

活動なし→機会がない。

行政（市役所）と社協の連携の悪さ

現在の活動内容全般に疑問を感じる

断れなくて委員になった。長くやるとリーダー的なものが回ってくるのではと不安。辞めたいと思った時、すぐに辞められるのか不安。

福祉に関心のない人が多く、福祉の恩恵を受ける人も極一部の人である

自分の経験不足を感じた

活動をするのはいいが会費集めに疑問がある

個人情報に気になり活動を戸惑うことが多々ありました。

人とのかわり、多様な関係 昔からある土地の各々の団体とは別に住民が世代を超えてかわり合える また他地区との交流もあるので大切な事であると感じた

実際に民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動をしての感想としては、「地域について考えるようになった」65.9%、「ご近所のつながりができた」64.3%、「福祉についての理解が深まった」48.3%と肯定的な感想が上位を占めています。

問6の回答結果から、民生委員・児童委員や地区福祉委員の活動を始める動機としては受動的であっても、実際に活動をする中で意義を感じ、意識が変化していることがわかります。

問 8 地区福祉委員会はどのような活動をする団体だと思うか。〔複数回答〕

n = 431

		人数	パーセント
1	子ども・高齢者・障がい者を主な対象に、福祉活動に取り組む団体	207	48.0
2	分野にかかわらず、支援が必要な人を対象に、福祉活動に取り組む団体	217	50.3
3	防犯・防災・環境などのまちづくり全般に取り組む団体	81	18.8
4	支援が必要な人を対象に、簡単な家事援助など日常生活の支援をする団体	28	6.5
5	支援が必要な人を対象に、見守り声かけを行う団体	243	56.4
6	ご近所同士のつながりをつくる団体	99	23.0
7	福祉のこころや意識を育てる団体	60	13.9
8	地域の困りごとを発見する団体	58	13.5
9	地域の困りごとを解決する団体	16	3.7
10	その他	5	1.2
無回答・システムエラー		16	

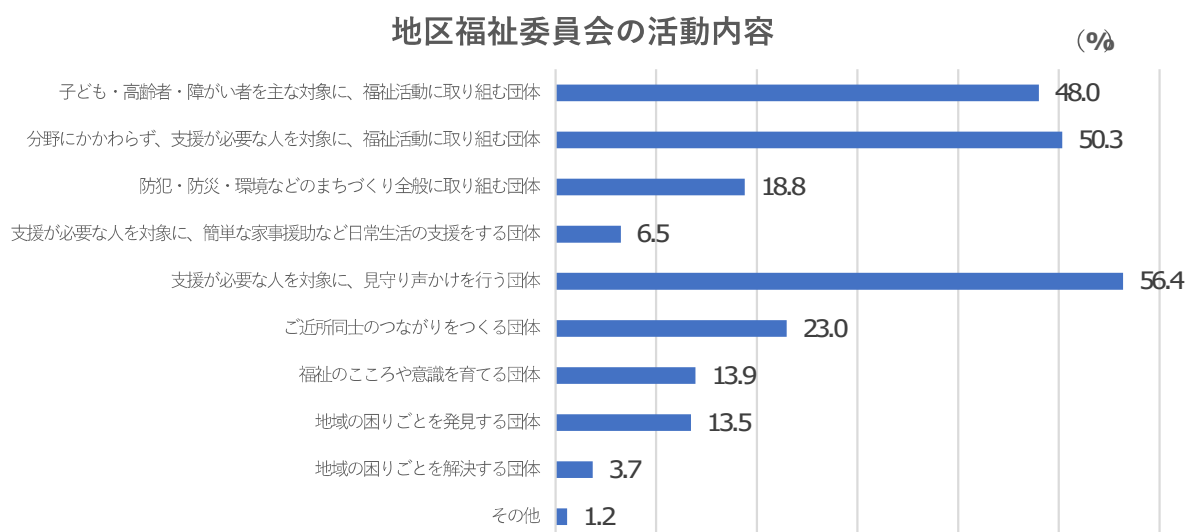
10. その他

行政ではすり抜けてしまう支援が必要な人を援助する団体

高齢者・障害者を行政を結ぶラインのアドバイス

わかりません

他の地域団体と連携（むずかしい、役割分担）し、⑦⑧③から⑨につなげれば理想的



実際に地区福祉委員会で活動している地区福祉委員だけでなく、民生委員・児童委員が地区福祉委員会をどのように捉えているかの設問です。

「支援が必要な人を対象に、見守り声かけを行う団体」56.4%、「分野にかかわらず、支援が必要な人を対象に、福祉活動に取り組む団体」50.3%、「子ども・高齢者・障がい者を主な対象に、福祉活動に取り組む団体」48.0%がそれぞれ全体の半数を占め上位の回答になっています。

地区福祉委員会は、市民啓発より、より具体的な支援が必要な方に対して、見守り・声かけなど「孤立を防ぐ」活動に取り組む団体としての認識が強いことがわかりました。

また、「分野にかかわらず、支援が必要な人を対象に、福祉活動に取り組む団体」という回答が半数に達していることから、活動対象を限定せず、社会情勢に応じた多様な生活課題に対応していくべきであるという認識が高まっていることがわかります。

問9【民生委員・児童委員のみ】民生委員・児童委員の活動で大変なこと、困っていることは何か。〔複数回答〕

n= 151

	人数	パーセント
1 担当件数が多いなど、忙しすぎる	10	6.6
2 仕事や家庭と民生委員・児童委員活動の両立が難しい	30	19.9
3 個別のケースにどこまで関わればいいかわからない	99	65.6
4 関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い	19	12.6
5 支援が必要な対象者に拒否される	11	7.3
6 支援対象者の家族の理解・協力が得られない	6	4.0
7 地域の理解・協力が得られない	10	6.6
8 募金活動などの活動が負担になる	16	10.6
9 行政の支援が不十分	22	14.6
10 関係機関（社協・地域包括支援センターなど）の支援が不十分	4	2.6
11 行政から必要な個人情報が提供されない	54	35.8
12 活動に関する経費が負担になる	2	1.3
13 福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい	13	8.6
14 委員同士の人間関係が円滑でない	2	1.3
15 特に大変なこと・困ったことはない	28	18.5
16 その他	6	4.0
無回答・システムエラー	4	

16. その他

関係団体の表彰式など、直接関係のない行事への動員などはやめるべき。時間を費やすばかりで何も残らない。

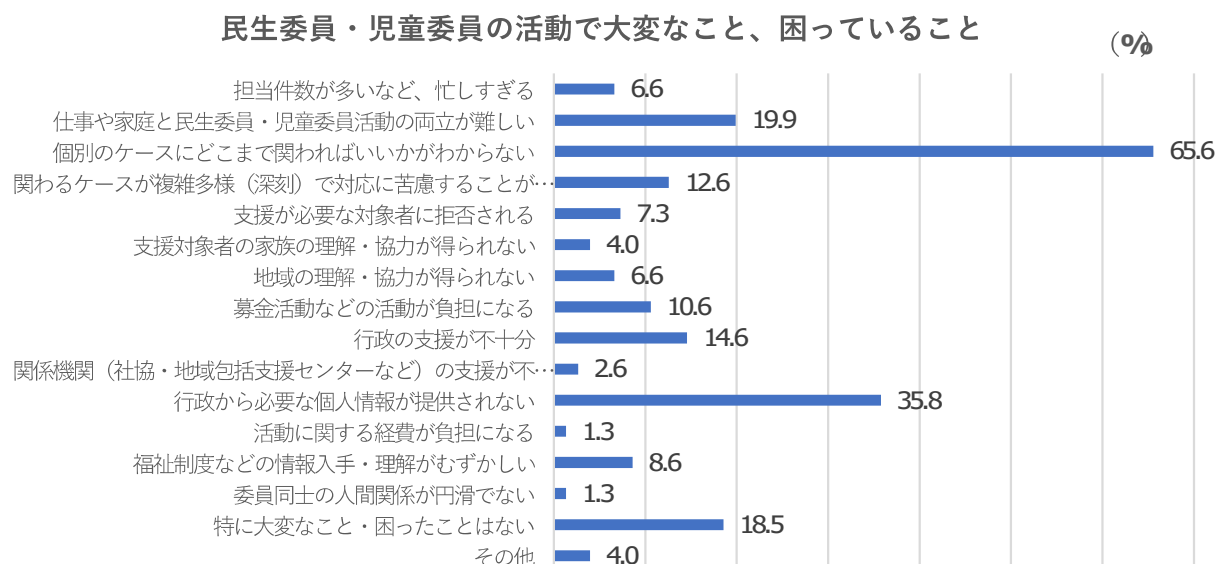
どういった活動をしたらいいのかわからない。

申請の書類に印をするだけ 必要か疑問です

男性一人住まいのお宅には行きづらい

コロナ禍のため活動が十分にできてなく心苦しく思っています

マンションが多くて見かけない人がほとんど



民生委員・児童委員の65.6%が「個別ケースにどこまで関わればいいかわからない」と回答しています。守秘義務があることなどで、単独での活動が多くなる民生委員・児童委員共通の悩みであることがわかります。

また、35.8%が「行政から必要な個人情報が提供されない」と回答しており、個人情報保護が必要な活動の障害になっていることもわかりました。

問10【民生委員・児童委員のみ】 民生委員・児童委員の活動をしやすいするには、何が必要か。
〔複数回答〕

n= 153

	人数	パーセント
1 研修の充実	14	9.2
2 活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供	69	45.1
3 行政からの必要な個人情報の提供	68	44.4
4 活動費の充実	5	3.3
5 民生委員・児童委員活動に対する地域の理解促進	34	22.2
6 行政の助言・相談支援などのサポート体制の充実	39	25.5
7 社協からの支援体制の充実	6	3.9
8 地区福祉委員会との連携	34	22.2
9 自治会・町内会などの地域団体との連携	39	25.5
10 地域コミュニティ推進協議会との連携	8	5.2
11 民生委員・児童委員協議会の活動の充実	9	5.9
12 民生委員・児童委員同士の交流・情報交換	41	26.8
13 その他	6	3.9
無回答・システムエラー	2	

13. その他

バス酔いや体に不安を感じる民生委員もいるので、研修など、遠出でバスで行くのはやめてほしい

時間の余裕

他団体との役職の兼任はしない。

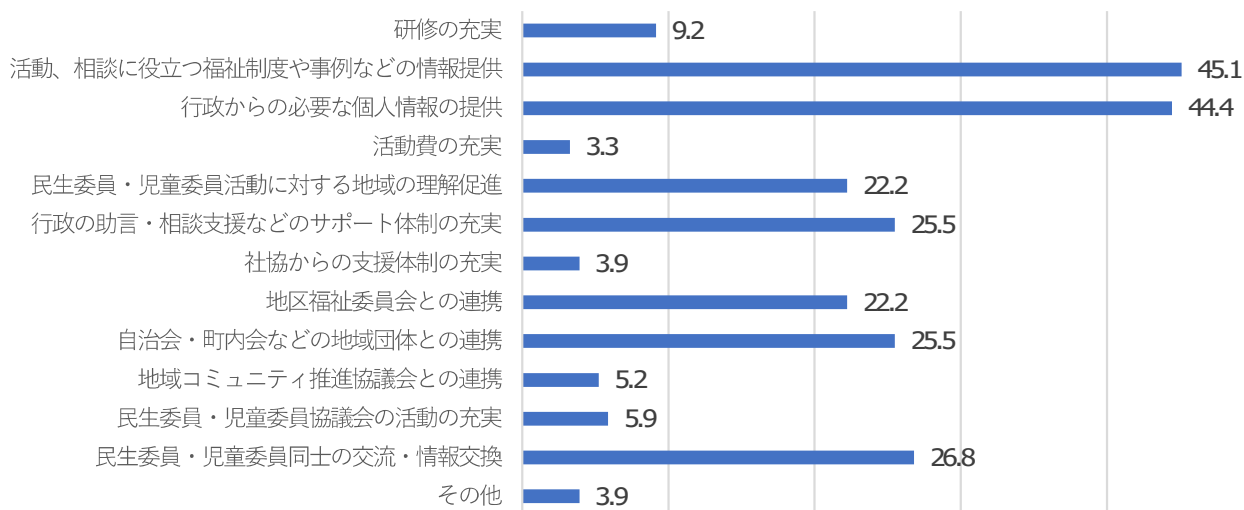
ご近所とのつながりが大切だと思います

担当エリアの細分化

ABCの3つ A⑪①②⑫ B⑥⑦ C⑧⑨⑩ 各々に役割分担と情報の共有をする

民生委員・児童委員の活動をしやすいするには

(%)



民生委員・児童委員の活動をしやすいするために必要なこととしては、「活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供」45.1%、「行政からの必要な個人情報の提供」44.4%が上位を占めています。また、次いで「民生委員・児童委員同士お交流・情報交換」26.8%、「行政の助言・相談支援などのサポート体制の充実」25.5%、「自治会・町内会などの地域団体との連携」25.5%の回答が多く、単独での支援活動が多い中で、行政からの適切な情報提供や助言、民生委員・児童委員同士の助け合い、地域の方々からのサポートを求めていることがわかります。

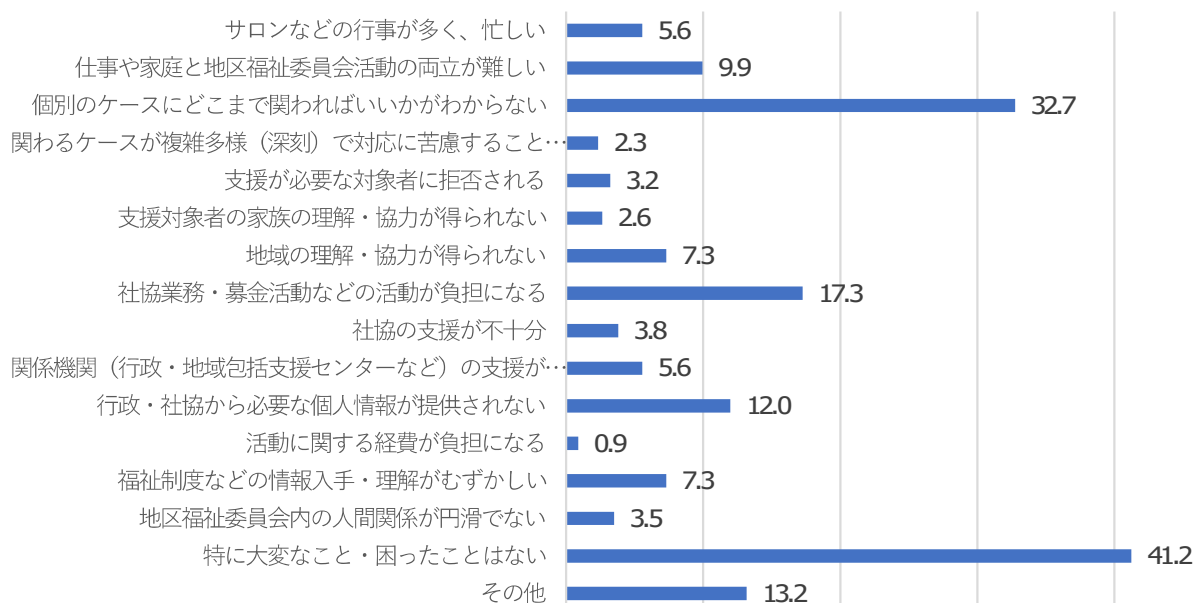
問11【地区福祉委員のみ】地区福祉委員会の活動で大変なこと、または困っていることは何か。
〔複数回答〕

n= 342

		人数	パーセント
1	サロンなどの行事が多く、忙しい	19	5.6
2	仕事や家庭と地区福祉委員会活動の両立が難しい	34	9.9
3	個別のケースにどこまで関わればいいのか分からない	112	32.7
4	関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い	8	2.3
5	支援が必要な対象者に拒否される	11	3.2
6	支援対象者の家族の理解・協力が得られない	9	2.6
7	地域の理解・協力が得られない	25	7.3
8	社協業務・募金活動などの活動が負担になる	59	17.3
9	社協の支援が不十分	13	3.8
10	関係機関（行政・地域包括支援センターなど）の支援が不十分	19	5.6
11	行政・社協から必要な個人情報が提供されない	41	12.0
12	活動に関する経費が負担になる	3	0.9
13	福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい	25	7.3
14	地区福祉委員会内の人間関係が円滑でない	12	3.5
15	特に大変なこと・困ったことはない	141	41.2
16	その他	45	13.2
無回答・システムエラー		24	

地区福祉委員会の活動で大変なこと、困っていること

(%)



地区福祉委員の41.2%が「特に大変なこと・困ったことはない」と回答していることが特徴的です。「個別ケースにどこまで関わればいいのか分からない」という回答も32.7%ありますが、全体として地区福祉委員会は委員同士が協力して行う活動が多く、個人としての負担は民生委員・児童委員と比較して少ない傾向があることがわかります。

「社協業務・募金活動などの活動が負担になる」という回答(17.3%)が3番目に多く、動員などによる活動のあり方が問われています。

16. その他

コロナでサロンの開催が難しい

若い（新しい）福祉委員さんの参加が難しい。

高齢者がほとんどでメンバーの交代ができない。やめる事が出来ない

福祉委は個人の住所を知らされてない

次の人に気軽にバトンタッチができないのでこまる。

地区福祉委員以外（一般の人は何の仕事なのか、何をしている団体なのかは知らない人が多い

交通費等の負担への支援があれば有難い

始めたばかりでわかりません。コロナで活動もへっていますので。

何をしたいのか？何をするのか情報が少なすぎて判断できない

コロナ禍で活動が制限されているのでむづかしい

基本的に地区福祉委員で何をするのかわからない。上からの指示で配り物をする位しかわからない。上層部だけで事を済ませている感じがする

支援からこぼれている人がいるのではないと思う

前任者の担当区域が私の住まいと少し離れているため対象者の方々の日常がわかり難い

自身体力的に難くなる

コロナ禍のため活動が全くできておりません。（子育てサロン）協力金を集める範囲が地理的に広すぎます。

委員の高齢化（２）

社協への不信感

後継者がいない（３）

参加して日が短いのでまだ理解出来てない

活動が強要される（やりたくないのに）

高齢になり活動に参加出来ない（ときが有る）

コロナ感染の為か一度も活動の機会が無い。

社協会費の集金（４）

年会費を集めるのが負担（領収書を書くのが）

若手がいらない

義務責任を感じず出来る事だけしている

担当件数が多すぎる（もう一人必要）

一つの役をひきうけると、次こうたいしてくれる人がない

福祉委員の高令化、次に変る人材さがしが困難

各地区での活動に対して支援が欲しい。色々と活動が広げられるように。

経験の長い人と短い人との間の情報？説明？がないように思う。

委員の高齢化、協力者の減少

活動場所（コミセンしかない）の確保

できるのですが高齢者が多いので大へん

平日の活動はほぼできていない

身内の介護に時間が取られるようになり、時間の都合をつけるのがむづかしくなってきた。

コロナ禍でイベントが中止になり、活動が出来なかった。

地区福祉委員→社協、あるいは包括支援センター、池田市と連携が密になり相談がしやすい状況になればよい。

特になし（３）

問12【地区福祉委員のみ】地区福祉委員会の活動をしやすいするには、何が必要か。〔複数回答〕

n= 338

		人数	パーセント
1	研修の充実	31	9.2
2	組織体制の整備・刷新	34	10.1
3	活動のマンネリ化防止	86	25.4
4	地区福祉委員会内の情報交換・話し合いなどの合意形成の促進	79	23.4
5	地域課題や地域住民のニーズを把握	128	37.9
6	行政からの必要な個人情報の提供	25	7.4
7	地区福祉委員会活動に対する地域の理解促進	54	16.0
8	地区福祉委員のなり手・協力者の増加	192	56.8
9	活動費の充実	12	3.6
10	社協の助言・相談支援などのサポート体制の充実	15	4.4
11	行政からの支援体制の充実	19	5.6
12	民生委員・児童委員協議会との連携	37	10.9
13	関係機関（行政・地域包括支援センターなど）との連携強化	15	4.4
14	自治会・町内会などの地域団体との連携	57	16.9
15	地域コミュニティ推進協議会との連携	20	5.9
16	その他	10	3.0
無回答・システムエラー		28	

16. その他

メンバーのスムーズな入れ替り、若い人50才代に参加してもらえる団体になる事

運営や会議などには参加していないので特にわからない

会費徴収の取り止め（住民全員が会員）全額公費で活動を支援

他地区福祉委員会や他市引く福祉委員会等との情報交換

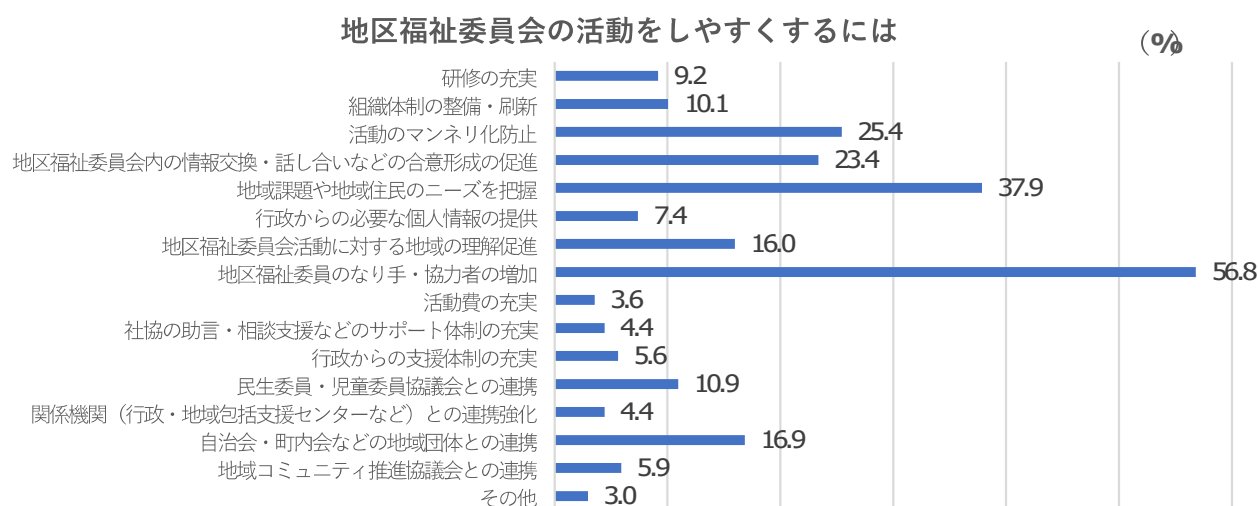
誰がどのように困っているのか、具体性が解らないと行動・活動の動機に継って行かない

身分が確立していない

取組の目標を定める。活動の対価（金銭）を委員に支払う。

各種団体との協力・連携が必要

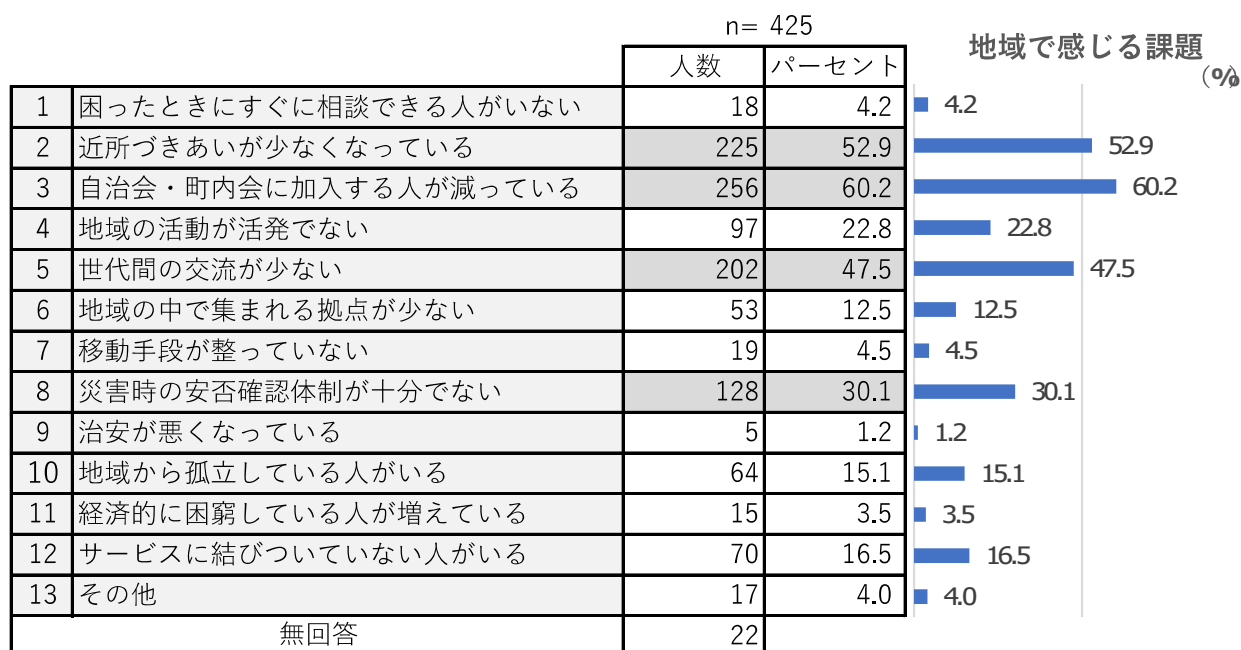
サロンにきていただいた方にやさしく喜んでいただけるように。



回答者の半数以上が「地区福祉委員のなり手・協力者の増加」（56.8%）を選んでおり、後継者不足が深刻であることがわかります。「地域課題や地域住民のニーズを把握」が37.9%、「活動のマンネリ化防止」が25.4%と続き、従来の活動が住民ニーズと合致しているかどうか確認の必要があると感じていることがわかります。

「地区福祉委員会内の情報交換や話し合いなどの合意形成の促進」（23.4%）では、コロナ禍の影響もあり地区福祉委員会内での情報交換や話し合いの場が減っていることがわかります。

問13 担当地域の中で感じる課題は何か。〔複数回答〕



13. その他

身勝手な理由から近所とのトラブルが多くなっているように感じる。高齢化の影響かも。

オートロックのマンション住民への活動がむづかしい（個々の訪問等）

福祉委員のなり手がなく少人数で活動しなければならない。民生委員のなり手も見つからないので自分が定年後の事が心配。

コロナの事で今は話し合う事が出来ない事

町内会費の有効活用が反映されている様に思えない

孤立している人がだれか判らない。

活動はされているがその活動が地域で浸透していない、されていないように感じる。

地域内でニーズが多様化している

あえて個立を望んでいるように思う 近所の人とかかわりたくないと感じさせる。

自治会・町内会がない

このような活動をご存知ない方が多い様です

地域の会館が老朽化している。

マンション等の方が自治会、町内会に入ってほしい

一人暮らしでも自分でやれる所までやと思っている人に声かけをしていいかどうか迷う。家族の人が嫌がることもあるので。

高齢者が増加

高齢化が気になっています。

福祉委員のなり手が少ない

自治会がない

相手も高齢化、生活スタイルの変化で活発には活動できないが活動のしやすい方向（役割分担 内容のみなおし）にあまり無理しないで少しずつでも継続することが大切。多年代の参加の可能な方法 各々のスキルアップ
転入者が多く残っているので話しかけるきっかけがむづかしい。

半数以上の回答者が「自治会・町内会に加入する人が減っている」（60.2%）と「近所づきあいが少なくなっている」（52.9%）を選んでおり、「世代間の交流が少ない」（47.5%）とあわせて、地域のつながりの希薄化が大きな課題となっていることがわかります。

「災害時の安否確認体制が十分でない」（30.1%）についても、約3人に1人の回答者が選んでおり、早期の安否確認体制整備が求められていることがわかります。

問14 担当されている地域の中で、気にかかる人、見守りや支援が必要な人がいるか。

〔複数回答〕



10. その他

ひとり親家庭

独居老人

隣人トラブルの改善方法が難しい

近所や地域の人との交流を好まない人

一人暮らしの高齢者

ふたごの親世帯

特に大きな問題を持った人は無い（小ネット対応として）

誰がいても出てこない人がいる

ひとり暮らしの高齢者

4, 5に関して支援が必要な人・子がみつけにくい

地域社会（自治会）に理解と協力が出来ない方がいます。

見つけられない人がいると思う

高齢者ばかりですがみなさん元気です。

奇行の人がいる。（社会ルールを守ることができない。精神疾患とを感じる。地区民生委員も周知

担当地域とは言っても住所、名前 何もわからないのに気になる人がいるとの話を聞いてもどうすればよいのか?そこまでの把握は出来ていない。

ひきこもりまではいかないが精神疾患により家にいることが多く（若い人） 家族の負担が大きい家庭が数軒ある。しかし直接家族から相談されることはあまりない 家庭内でかかえこんでいるように思う

特定個人に対して被害妄想のある人

⑥ではないが地域と交わろうとしない人もせめて同じ地区に住むなら挨拶ぐらいはお互いしたい

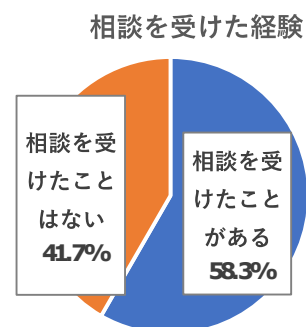
一人親世帯

67.8%が「高齢者のみ世帯」を、26.0%が「認知症の人」を見守りや支援が必要な人として回答しており、日頃から主に高齢者世帯に対して気にかけて、見守りをしていることがわかります。

一方、22.7%が「わからない」と回答しており、民生委員・児童委員と地区福祉委員の大きな役割である地域での見守りや支援の活動について、関わることができていない人が少なからず存在していることがわかります。

問15 地域住民の困りごとの相談を受けたことがあるか。

		人数	パーセント
1	相談を受けたことがある	249	58.3
2	相談を受けたことはない	178	41.7
	合計	427	100.0
	無回答	20	



受けたことがある場合、どのような経路で受けたか。〔複数回答〕

		n = 249		相談受付経路 (%)	
		人数	パーセント		
1	本人から	158	63.5	63.5	
2	家族から	49	19.7	19.7	
3	近所の人から	130	52.2	52.2	
4	自治会・町内会の役員から	20	8.0	8.0	
5	保育所・幼稚園・小学校・中学校から	12	4.8	4.8	
6	社会福祉協議会から	12	4.8	4.8	
7	地域包括支援センターから	37	14.9	14.9	
8	ケアマネ事業所・障害者相談支援事業所から	15	6.0	6.0	
9	民生委員・児童委員から	44	17.7	17.7	
10	地区福祉委員から	30	12.0	12.0	
11	その他	9	3.6	3.6	

11. その他

理事長の為、相談が希れにある

ネット環境の無い人がワクチンの接種申込を頼まれた

校区外の人から

市役所

シルバー人材センターから

2～3年前に声をかけましたがだいたいじょうぶだと、その2～3月してから、自殺されてショックでした。2軒先に民生委員がいてはるのに、もどかしかったです。

子育て支援拠点

会合や行事の中で

地区の方の兄弟さんから

58.3%が「相談を受けたことがある」と回答しています。相談を受けた経路として一番多いのが「本人から」63.5%、次に「近所の人から」52.2%と、それぞれ半数をこえています。

福祉専門機関や教育機関からの相談は比較的少なく、本人や家族、近所の人、民生委員・児童委員や地区福祉委員同士など地域からの相談が圧倒的に多いことがわかります。

一方、41.7%が「相談を受けたことはない」と回答しており、地域福祉活動の従事者が必ずしも相談窓口として認識されているわけではないことがわかります。

問16 民生委員・児童委員、地区福祉委員として困りごとを抱えている住民をどのような機会に把握することが多いか。〔複数回答〕

		n= 425	
		人数	パーセント
1	地域団体などの会合や行事の中で把握	115	27.1
2	地区福祉委員会のサロン行事に参加している中で把握	93	21.9
3	民生委員・児童委員や地区福祉委員会などの見守り・声かけ活動の中で把握	162	38.1
4	日常生活の中で把握	194	45.6
5	今まで把握したことはない	66	15.5
6	その他	17	4.0
無回答		22	

6. その他

余裕ある生活ができていれば困らないと思います。

長寿祝金持参時

75才以上一人暮らしの方、又は社協の会費を集めた時

相談を受けた時

地域の方からの連絡・包括からの連絡

ご近所より相談を受ける

マンションのコンビニ・管理人から聞いて

本人からと自治会長さんから紹介してもらって、本人から。

困っている人はいない

包括との意見交換会での把握

ボランティアやゴルフ、ハイキング等の遊び

近所の方、家族の方からの連絡

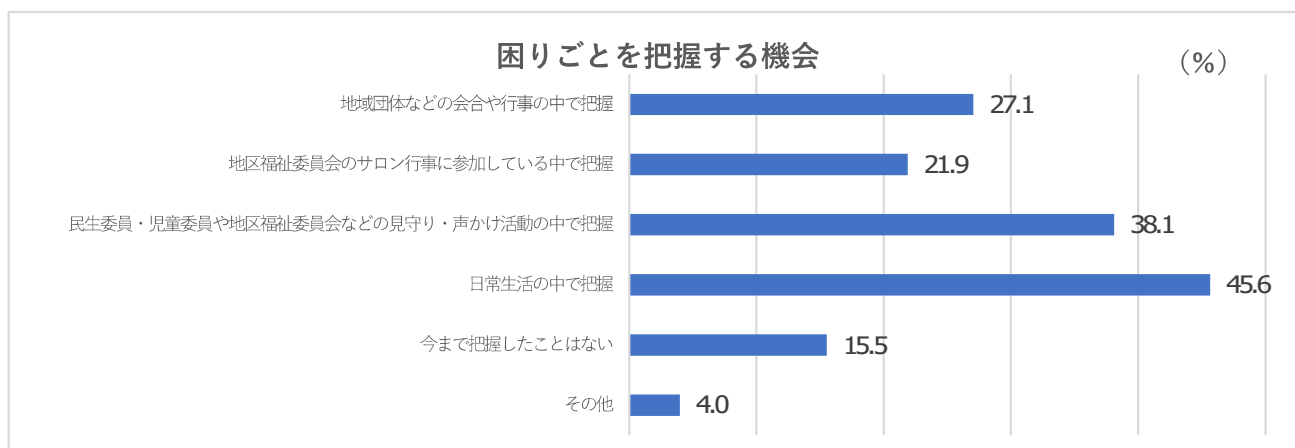
本人から、遠方家族から、電話相談。

近所の噂

国勢調査員の時/訪問時で

市（要保護・要支援会議）地域包括支援センター

ニュースが入って来ない。



一番多い把握の方法は「日常生活の中で把握」45.6%、次に「声かけ活動の中で把握」38.1%が多くなっています。このことから、民生委員・児童委員や地区福祉委員が相談を待っているだけでなく、日頃からアンテナをあげて、困りごとを抱えている住民の情報を積極的に把握しようとしていることがわかります。

問17 ともに支え合う地域づくりをすすめていくうえで、行政と社協の役割として重要なことはどのようなことだと思うか。〔複数回答〕

n= 447

		(行政)		(社協)	
		人数	パーセント	人数	パーセント
1	困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供	238	53.2	197	44.1
2	身近なところで住民どうしが相談し合える場の充実	80	17.9	173	38.7
3	専門職による相談窓口の充実	237	53.0	86	19.2
4	学校教育や生涯学習等での福祉教育の充実	196	43.8	37	8.3
5	地域住民の活発な交流や相互扶助の促進	75	16.8	190	42.5
6	地域における福祉活動の意義・重要性の啓発	88	19.7	169	37.8
7	住民が主体となった福祉活動をすすめるための環境整備	143	32.0	121	27.1
8	ボランティア活動を促進するための支援	134	30.0	146	32.7
9	福祉活動をけん引する人やリーダーの育成	150	33.6	159	35.6
10	住民が気軽に利用できる集いの場の充実	136	30.4	166	37.1
11	誰もが暮らしやすい生活環境づくり	227	50.8	72	16.1
12	地域住民どうしが相互に交流したり、気軽に相談したりできる場の充実	111	24.8	183	40.9
13	地域における福祉活動の拠点整備	107	23.9	131	29.3
14	地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助	183	40.9	67	15.0
15	ひきこもりの方やその家族のための支援の充実	172	38.5	109	24.4
16	経済的に困窮している方への支援	244	54.6	53	11.9
17	認知症の方などの権利擁護の充実	183	40.9	65	14.5
18	その他	10	2.2	8	1.8

18. その他

(行政)

困りごとの実態調査

小中高校生のボランティア育成

携帯のアプリで誰でもいつでもどこでも地域の事が分かる様にする。(1～17の事が含まれる)

会と無料、全額公と助成、住民が福祉の対象

認知症の知識と理解を広め本人・家族の居場所作りをする

本来行政の仕事

1の情報提供知らない方が多すぎます。

地域児童とのふれあい

どちらもやるべき

(社協)

困りごとの実態調査

小中高校生のボランティア育成

携帯のアプリで誰でもいつでもどこでも地域の事が分かる様にする。(1～17の事が含まれる)

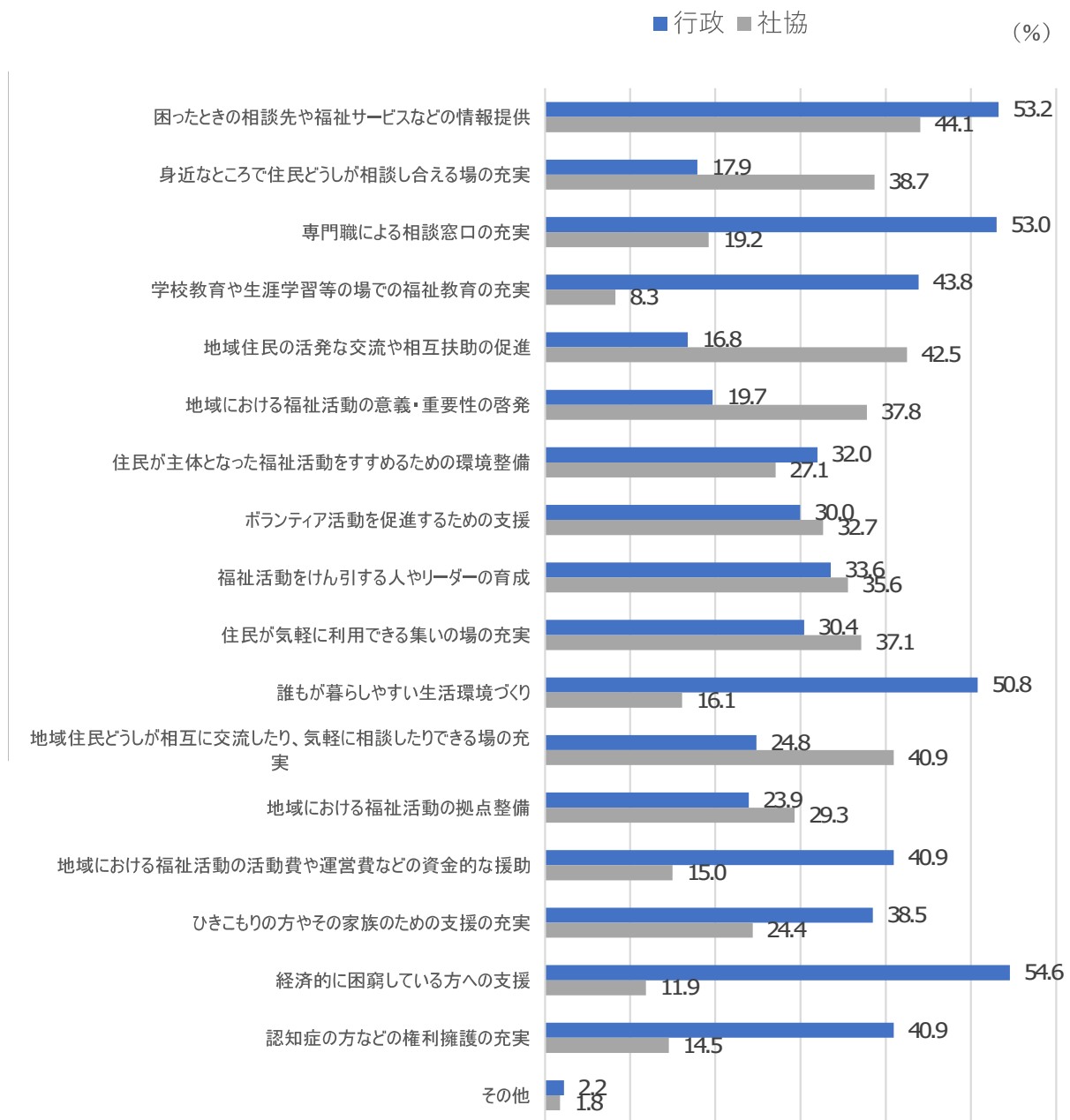
会と無料、全額公と助成、住民が福祉の対象

認知症の知識と理解を広め本人・家族の居場所作りをする

若手の育成

どちらもやるべき

地域づくりをすすめていくうえで、行政と社協の役割



行政の役割としては「経済的に困窮している方への支援」54.6%、「困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供」53.2%、「専門職による相談窓口の充実」53.0%など、制度的・専門的支援を求める回答が上位を占めています。

一方社協の役割としては、「困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供」44.1%、「地域住民の活発な交流や相互扶助の促進」42.5%、「地域住民どうしが相互に交流したり、気軽に相談したりできる場の充実」40.9%など、住民同士の交流や相互扶助の促進を求める回答が上位を占めており、行政と社協に対して求める役割を分けて考えていることがわかります。

また、「学校教育や生涯学習等での福祉教育の充実」については、行政43.8%、社協8.3%となっており、従来は社協の役割と考えられていた福祉教育の分野が、行政の役割として認識されていることがわかりました。

問 18 誰もが安心して暮らせる地域づくりについての意見や要望（自由記述）

- * 何かあったときに頼りになるのは隣近所の人々の支えであるにもかかわらず、自治会・子ども会などに加入する人は年々減少しているのが実態だと思う。その一方で、子ども会主催のラジオ体操や地域団体主催の運動会などには景品目当てで参加する人が多いと聞く。両親が共働きで参加しにくい事情は様々あるものの、地域ぐるみのまとまりを高めるため、個々が負担に感じないで継続的に地域の人達とかかわっていただけるような方策を、池田市としても真剣に考えるべきではないか。現実には、何かの集まりや世話をする人はいつも同じ顔触れになってしまっているのでは・・・。
- * 私の住む地域は戸建てが多い。また少子高齢化も顕著です。地域のネットワーク形成や互いに助け合える状態とは言い難いと思います。つながりの希薄な地域ともいえます。「昔は、自治会でバス旅行に行ったりと、とても楽しかった…」といわれる老人もおられます。現在は自治会も活動らしい活動はほぼ皆無と言っていると思います。（コロナ禍に関係なく）そのため、情報も入らず、町内を定期的に見守りするのみの活動となっています。
- * 今まで地域福祉活動に携わっていた人が高齢となり、世代交代が進んでいます。地域住民間での交流も少なくなり、無関心の人が増えていると思います。70歳近くまで働くのが当たり前、若い人たちは、自分たちが生活するだけで精一杯の状態です。地域での活動には限界があり、行政の役割が重要になってきていると思います。
- * いろいろな福祉活動や支援を知り、参加しやすい環境、チャンスを作ってほしい。もっと情報提供をしてほしい。
- * 市の職員の方々の居住地区での地域づくりへの積極的な参加を望みます。最低限度、町会加入を！！
- * 誰もが安心して暮らせる地域づくりのためには、顔見知りを増やす、あいさつ声かけが気軽にできる関係を作る→近所づきあいの充実が一番に思えるが、自治会加入者の減少が加速している。行政はもっと「自治会」を大事にして、結成自治会に対して会議費、コピー代などの運営助成金や会員交流費（ex: コロナ禍では無理だが、バス旅行のバス代補助、地域運動会時や花見などの行事時の弁当代補助など）を充実させてほしい！会員が増える施策を考えてほしい！☆防災に関して 防災訓練時に防災倉庫の備品を実際に使ってみるや避難所にある設備の公開、救援食品の試食など、もっと住民が積極的に関わろうと思うプランを立ててほしい。
- * 世の中全体が格差によって施設にも入れない人が多くなっている。福祉を充実とか言われますが、現実お金がない方は、なかなか施設に入れない方が多い気がします。本当の福祉ってなんですか？
- * 明るい街作り及び安心して生活が出来る様に街灯の充実。見通しの悪い地点のカブミラーの設置（特に通学路において）
- * コロナ禍の中立ち話など少なくなり難しくなっているがなるべく声かけなどしていきたいと思います
- * 基本の第一歩になるでしょうがちょっとでも知った顔同志の「おはようございます」「こんにちは」そして立ち話ちょくちょくして困り事を話題にできる地域になるとうれしいです。自分の困り事を伝えるのはすごく勇気が必要だと思います。夏なら木かげのベンチ冬なら風よけのあるアズマヤ、グループでお世話するフラワーポット etc 日常生活の中での動線よく出合うシステムがあります。行事がらみだと「よそ行きモード」のかかわりになりがちで本当のこまり事が出せない。よい池田になりますように。「誰もが安心して暮らせる」はゴールとして「困っている事を聞いてくれる人が1人はそばにいる生活」を今の一歩にしてはどうでしょう。

- * いつも地域の活動をご指導いただきありがとうございます。すべての団体で言えることですが、縦と横のつながりを強化するということではないでしょうか。池田の街も高齢化が進んでいますので今のうちに色々年長の方々におしえていただきたいと思います。理想ですが、色々な世代がバランスよく組織を作っていけたら良いのに…と常々思います。私も60代後半になりました。おかげ様で心身共に健康ですごしています。『この方達と一緒に活動したい!』と求めていただけるような組織にして、若い世代の方にバトタッチしていけたらいいなあ。」と思う今日この頃です。まとまりのない文で申し訳ございません。よろしくお願い申し上げます。(皆様ご自愛下さいませ)
- * 民生委員 児童委員として地域の住民の方にどこまで関わっていけば良いか迷う事があります。ex 災害時の高齢者の方の避難指示が出た場合、高齢者の方から一緒に避難所に行って下さいと頼まれた場合とか困っている方と行政の橋渡しの仕事であると認識していますがどこまで民生委員として立ち入っていいのか線引きがむずかしい。その辺のある程度わかりやすい事例や判断基準があれば活動しやすいと思います。ケースバイケースでは行動しにくいですね。
- * 一人暮らしの方が多くなってきたので”声かけ運動”ができたと思います。いずれ自分も皆さまのお世話になる事を考え仲良く助けあいながら楽しくやっています。私は満寿美ですが住んでいる所が大好きです。
- * 行政・社協との連携プレーが一番重要かと。情報提供などを密にしてこれからも活動していきたい。
- * 情報の共有のための手紙を読んでももらえないのでは。読んでも忘れてしまうので、どうしたら良いか悩ましいです。
- * 一軒のあとに三軒、五軒と分譲され、新しい住民の方達は引越の挨拶がないことも多く馴みになりにくいと思っています。
- * 民生・児童委員として10年間活動してきましたが、就任した12月から3ヶ月後に福祉委員も兼任と言われ、その時は自治会で婦人会の会長・地婦協理事と兼任していて大変な思いをしました。何とかやって来ましたが、これでは委員のなり手が無いのは仕方ないと感じました。もっと多数の人たちに委員になってもらえるよう活動費の充実をして、やりがいのある活動だと思えるよう工夫していただきたい。年金生活をしている高齢者に福祉活動を頼る行政の考えを改める事が必要なのでは。益々高齢化が進むこの後の生活を安心して助け合えるにはどうすべきか。専門家の方々のお知恵をお聞かせ願いたいと思います。
- * 最近は少しは見えて来ていると思うがまだまだ、一般には福祉や民生などの活動が見えづらく、感心の無い人が多いと思う。合流している人達はわかるが組織団体がおなじ事をやりすぎでは…ないでしょうか?社協の役員も若い方達が少なく無関心な若い人が多いのでは?とこの先心配しています。民生委員さんの選び方も地域地域で人数が有り選び方も大変で人数合せで選ばないといけないのは?特に集合住宅やマンションなどは大変と思われます。ましてその方達を見ていると…ほんとうに名前だけではないかと思われます?が…
- * ご近所づき合いが大切!!
- * 特に民生委員、地区福祉委員の高齢化が進み若い方の参加を希望します。どうにも活動がマンネリ化し進歩がないように思います。
- * 2025年には5人に1人は75才以上になるという事で高齢化社会がますます加速します。民生委員、地区福祉委員のみならず地域全体で高齢者の方々を支え合っていく事の大切さを感じます。高齢者にとってはティーサロンのような楽しくおしゃべりできる居場所作りが必要と思われます。もっと増えることを望みます。
- * 地域の問題点を共有し、解決に向け対策を行うこと。その為に各種団体が話し合える場が必要かつ大事と思う。

- * 1. 役所内の横の連携がない 2. 異動で早く担当が変わり何事にもな ぁーな ぁーになる事が多い（役所）
- 3. 個人情報と言って必要な情報の提供がない
- * 地域の人に福祉などのボランティア活動について、知らない人がいる。地域でこういう活動を市報等にわかりやすく載せてほしい
- * 社協と自治会、地域コミュニティ推進協議会との相互協力関係の構築が必要ではないでしょうか。
- * スピード感が求められる現在、若手層を含む地域の多くの人に、地域の活動の内容を知ってもらう為「アプリ」により、いつでも誰でもどこでも見る事が出来る新しい形が必要。早急に取り組んでもらいたい。
- * 86才になって考える事も、体を動かす事もだんだんかんまんになり、今は皆様方のやさしさに感謝しています。子育て支援やつながり会も皆様にたすけられています。何事もバラ色に見えます。
- * 福祉行政に携わる皆様ご苦労様です。
- * 五月丘地域でも高齢者の増加による今までとは少し違う暮らしかたの見直しが必要だと思います。地域福祉活動においても活動の継続、サロン等の定着（利用者の中にスケジュール化してもらう）ことは当然ですが、さらに1歩踏み込んでセッティングして待つだけではなく出前型の活動も必要だと思います。
- * ①行政内部のタテ割り組織の弊害の解消や情報の共有をお願いします。②個人情報の取り扱いにあまりにも神経質になって、必要な人に必要な支援が届きにくくなっている。本人や家族が承諾すれば個人情報を関係機関（行政・警察・消防）や社協、地域包括支援センター、地域の見守り活動をする人（民生、社協、防犯など）が共有出来るようにする必要があると思います。
- * 役員を、する人が中々いません。一度、引きうけると何年も続けてしなくてはいけなくなり、お年をとった人には大変だと思います。何か魅力的なイメージでもあればと思います。
- * 難しい事ですが住民一人々が傍若無人にならない様心がける事が一番の基本であるように思われます。気がついた事があればまず信頼出来る地域の方に伝える。そして共に市に連絡し真摯に対応して頂ける態勢が充実していく事を望みます
- * 高齢の独り暮らしの方は大半が女性ですが最近男性の方も増えているようです。御夫婦二人暮らしから奥様が亡くなられての独り暮らしのようです。これからは「ふれあいサークル」のような地域の福祉での男性への呼びかけも必要だな ぁーと思います。男性は新しい仲間を作るのにすこし時間がかかるようにも思います。ひとり暮らしの方ばかりでなく御夫婦単位での呼びかけもあれば次の段階へとすすめるのでないでしょうか？御近所の付き合いの大切さを感じています。できるだけ日頃からのお付き合い声かけをしてみてくださいと思っています。
- * 必要な情報やサービスが必要な人に届くような施策がいます。特にコミュニケーション能力が"生き方"に影響を与えることが大きいと思います。専門職の方も忙しいと思いますが手厚い関わりが重要になり、場所・人のより充実した施策を築いていくことが推進の基盤になると思います。
- * 市民が自ら参加協力したい場を継続して提供行政（市長、市議）が変わろうが変わらず継続できる組織を確立、リーダーを育成（20～40代が率先して動ける現場を50代以上が導き）地域全体で子供を育てる、公園と憩いの場は身近にして相互で見守れる環境作りに
- * ・サラリーマン生活をしている時は会社の事で頭が一杯で、地区福祉委員も民生委員・児童委員の事は何も知らなかった。・定年後ボォーとしていたら、近所の奥様方より地区福祉委員になってくれ！！とすすめられた。・バザー委員から地区福祉委員長を努めて9年となる。・地区福祉委員の活動・意義・重要性を啓発しなければならないと思う。
- * 街頭の防犯カメラの充実。

- * 行政と社協の連携が大事であると考えます。行政⇄社協 この関係が深まると地域活動問題点が明確化してくると思います。 ○行政は社協にまかせきりにしない ○社協は行政にはっきり物が言え、常に流れを良くする、意識向上が必要だと思います。 ○行政に有能な方がたくさんおられると思います。能力を発揮して下さる方の行動などしほりをなくす、そして慣例にとらわれず市民の為に働いていただきたいです。 ○市民に歩み寄ってもらいたい。
- * コロナ禍で集まらないのが何より困りますが、対面でなく相談や交流を行う方法を工夫していかななくてはと思います。若い人の SNS 活用は進んでいますが、高齢者はやはり対面でしか話が進まないところもあり様々な事例を知りたいと思います。
- * 地域の中には色々な資格や特技をもっている人がいるが民生委員や福祉委員はそれを把握してない（出来ない）ので同じ人がいつも負担したりしているので行事がマンネリ化して魅力が無くなっているように感じる。コロナで地域の情報を得にくいのかも知れませんが以前から会議でもそういう情報をとり入れるような事をしていないように思う。取り入れる事によって協力してもらえたり理解が得られるようになるのでは
- * 初めて地区福祉委員会の活動に関わって 2 年目に入っています。現在、社会福祉協議会の沿革、組織、活動内容について勉強中です。思いつきで福祉委員会の抱える課題・問題について 2 点。記載させていただきます。1 役員・会員の高齢化、後継者不足、会員の減少 年齢に関するデータがなく、見た目の判断ですが、役員はもとより、会員も高齢化が進み、他界、退会する会員が増加してきている。・役員として期待のできる会員（65 歳～75 歳）が少なく、後継者が見当たらない。→部会が多く、活動内容が重複していると見られるので、整理統合する必要がある。・高齢化、少子化、自治会・社協からの退会者の増加、新規加入者の減少などにより、従来、地域のつながりを醸成していた、祭り、盆踊り、子供会、運動会、スポーツ大会の地域活動が減少又は中止されるなど、地域（自治会）の連帯感が希薄化している。→これといった対策が思いつかない。 2 社会福祉協議会の会費徴収 初めて会費徴収に当たったが、相当区域の会員は高齢で体の不自由な会員も存在する。このような会員から会費を徴収することに疑問（福祉の支援対象ではないか）を感じる。→会員の資格について一定の基準が必要ではないか。
- * 地域づくりについて行政がもう少し介入しては如何、今の状況では行政が何か及び腰の感じがする。例えば自治会（町内会）の加入人数が年々減少（年令の為）新しい家が建っても私の地域では自治会に入る人は皆無です。
- * ・いろいろな部門で同じ様な活動をしているので同じ事のくり返しの様な気がします。 ・各部門が一同に集まり役割や分担を決めもっと深い支援や活動をした方が落ちこぼれの出ない支援が出来る様な気がします。
- * 地区福祉委員の活動内容や存在自体知らない方が多いように思います。PRできる場を増やしていきたいです。活動する上でどうしても個人情報が必要になってくるので、できるだけ提供して欲しい。
- * 困っていることを「困っている」と口に出して話してもらえらるまで気長に対応していく時間が必要。しかしその猶予があるのかどうか。 高齢者台帳にせめて独居（昼間独居も）がわかるようにしてあればと思う。介護サービスも受けず家庭内で介護をしている人はいないのだろうか。どうすれば支援につながるのか。
- * 記入した以外にはとくにありません。
- * 日常的にお困りごとや障がいなどがある方は、日々を生きることに精一杯で、なかなか自分から助けを求める窓口を調べ、発信することは難しく、支援にたどりつけないことが多くあります。でもその問題のほとんどが、当事者や家族だけで改善されることはまれで専門的な知識や福祉サービスの情報をもつ第三者

につながることで、助けられるのだと思います。他者のお困りごとに気づいているご近所の方や、福祉委員などもその生活上の問題が大きいほど、どこまで個人の問題に介入すべきかわからず困惑します。まずは、支援を必要とする人が、ささいな事で相談できるような場を作り専門家の助言やかかわりにつながる様な仕組みが必要だし身近なものとして利用してもらうための伝え方に工夫がいると思います。まずその第一歩のハードルを下げるのが大切だと思うからです。誰もが安心して暮らせる地域づくりは決して一朝一夕にはできないと思いますが、そこに暮らす人一人ひとりの周りの方への理解を深める機会を増やすことなどで、少しずつおせっかいの輪が広がり人のつながりができれば、今後も増えるであろう災害や防犯の意識にも役に立つことだと思います。

- * 今まで自然災害等で甚大な被害を受けた事が無いいため防災に対する意識が行政も住民も薄いと思う。市や町ぐるみで本気で準備するべきで社協のリード、ボランティアの教育が急がれると思う。
- * 地域住民の方にイベントや交流の場を設けているが各団体項に実施している。もう少し各団体との交流も必要になればと思います。（全体的なイベント、交流会が必要）
- * 社会福祉協議会の認知度の向上の為 P.R.が必要。特に若い世代へ！！
- * 福祉委員の担い手がなく福祉員の高齢化が進み行事が負担になって来ます。
- * コロナ禍の中で集まることがなくなり大変残念です。デーサービスなど工夫して経営しておられるようです。社協の中で人数、内容を制限してやれることがないか考えてみてほしいです。
- * 今はコロナ禍でなかなか人と係わる事が少なくなっていますが各町や校区毎に定期的に子供から高齢者まで集える場所を作りそれぞれが自分の都合に合わせ自由に参加できる場所があればよいと思う。例えばラジオ体操をする、情報交換（世間話、どこのお店に行ったら安いけどおいしかった・・・）などできたらよいと思う。そうすることで、安否確認や情報も収集でき、お互いを気づかい見守りなどができると思う。このような場所があったらよいと思います。
- * 福祉委員をやらせていただいています。特にこの 2、3 年地域で高齢者が増えて参りました。施設に入られる人子供さん宅へ移動される人がみえます。住宅地ではありますが空屋が多くなって来ました。永年くらして来て思い出の家を離れていかれる淋しさは言葉にいいあらわす事のできないものがあります。私は福祉員を持して特に気をつけておことは独居の御老人の方々です。「お元気ですか?」という一言がとても嬉しそうです。どうぞ、いい人生をまっとうしていただきますよう、日々、祈っています。ある人が私のことを「地域の灯台守り」と嬉しいことをいって下さっています。頑張ります！
- * 大人、子供にかかわらず人を他人を思いやる気持ちが低下している。以前より生活レベルは上がっているが自分だけよければ何かメリットがある事しかない悲しい人がふえていて福祉活動にも協力してもらえない。むかしの世話やきおばちゃんが福祉委員その者だと思います。だれもが福祉委員の思いを持ってもらえる世の中をめざしてほしいです。
- * 地域における世代間の交流が計かれたら良いのと思います。
- * 池田市全体かもわかりませんが、池小校区はサロン・居場所に新しい方が参加されない（特に 1 人で）友人等にさそってもらって来ましたとか〇〇さんに背中押されて参加の人がたまにあります。福祉主催のイベントときくだけで垣根がまだまだある感じで主催者側としてはもどかしい時があります。もっとフラットに来てほしいし何でも相談してもらいたいと感じています。福祉活動を PR するのに箱の中でイベントしていてもわかってもらえず商店街・公園等利用したいのですが〇〇に許可書出して申請して、手続きがありすぎてついつい気おくれしてしまうと委員さんの中からも声が出ます。1 ヶ所に申し出て許可が出れば場所が借りれたらどれだけ活動が広がるかなあ～遠い話しになるかもしれませんがあきらめないでまします。

- * 社協の役割や活動が住民の方々に理解していただけていないように思います。
- * ・行政における縦割の弊害を無くす必要がある ・各種団体の情報共有、個人情報の開示の問題
- * 高齢者が多い時代ですので、そうした方々が家に閉じ込まないためにも、地域での集いを色々模索して開催していくのが良いと思います。いかに興味深いテーマを多く考え出すことができるかが大切だと思います。
- * コロナの接種予約の時など継がらない電話に何日もかけていてもダメ高齢者にとっては無理な方法！自治会によっては予約をしている所もあったので徹底して団体が手をさしのべてほしい。私も 90 才過ぎて電話を回わし続けている人にネットで申し込んであげましたが一つの例としてきめ細やかな福祉の方法を考えてほしいと思いました。私達福祉委員が知り得る近隣には声かけしていますが知らない人にはおざなりになっているのが残念です。
- * 地区で活動されている方は高齢の方が多くのように思います。もっと若い人の力も集まればと思います。
- * 地域福祉委員としてできることをすれば良いと活動しています。伏尾台は高齢化が進み、またたく間に近所老老介護の世帯となってしまいました。友達を多く持っている方だと思うのですが、家にこもっている人、障害をもっている方などが、回りに増え、その友達近所にもふえてきました。こちらも高齢になりつつあり、いつまでも活動できるかわかりませんが、できるかぎりつづけていけたらな、と思います。なかなか若い人（40～50 代）の活動をしている方が少なく、それがむづかしい所です。働いている人との交流が少ないので友達にもなりにくく、退職後の方が活動に参加されることをまっています。
- * 地域の独居高齢者、健康状況等の情報が分からないことが多いと感じます。福祉委員の経験も 2 年と少ないのでそうした情報はほしいと常々思っています。
- * 地域の福祉活動には、社協のような組織と地域に根付いた自治会、地域コミの連携が必須。交流の場として、各町などの会館があるが、かなり老朽化が進んでおり、特に後期高齢者、障がい者に対応出来る設備としては遅れている。又、世代間交流は今後の社協の活動に必須であるが設備としては十分とはいえない。例えば池小にある旧給食センターなどを児童と地域とくに高齢者との交流の場をするなど、積極的な投資を願う
- * 以前居住していた所では、1 人の民生委員に 3 人のアシスタントを選任にて役割分担していましたが、ここでは 1 人で福祉委員もかねるという状況で行きとどかない点が多いと思います。
- * 地域によって活動が様々です。私の地区では 1 人暮らしの方の見守りや配食などがありますが（その他いろいろ活動あり）私が訪問ヘルパーとして行っているご家庭は民生委員の存在も知らないとの事。よって配食などもなし。同じ池田でこうも違うのかとびっくりしました。
- * ①行政、地域コミュニティ、社協、民生、それぞれは活動的にだいぶ充実してきていると思うが、相互の連携、交流、情報の共有、連絡がないために、全く情報のない中での活動はかなりの負担になっている。②私自身、前任者から民生委員を引き受けるまで「民生委員」の存在を全く知らなかった。一般市民に知られているのか疑問。③個人情報の保護のため、なかなか各家庭に入りこみにくい。行政（市）からの情報もないため、活動できない。
- * このアンケートの主旨には合わないが、気にかかる事なので書いておきます。小さい市で勝手な市長は退場したが、市会議員の定数を半分以下にすべきである。財政悪いのに、既得権益としてのさばっている。署名を集めてたりしているが、決めるのは己達なので、決めない。どうしようもない！
- * 昔の様な近所付き合いがなく、清掃活動もむづかしく、若い方と年寄りの接点が見えにくく、どこまでかわかっていいのか、わからない。なごやかな付き合いをして行きたいものだと思う。

- * 昨今は隣組の意識が変化しています。自治会加入も減少している中 社協に関する加入意味に疑問を持たれる方が多いです。集金をするのは正直苦痛です。仕方無く収めるお宅を訪問するのは今回地区委員を頼まれて集金へ行き本当に疲れました。自治会役員の方が気が楽です。苦しい方に社協入会はとても云えません。私のように断れずに委員を渋々引き受けているのが現状だと感じています。
- * 高齢化がすすみ、おたがい思いやりをもってくらしていきたいと思っているが、個々の考え方もそれぞれでむずかしい。地区福祉の方々がふれあいサロン等献身的に活動されている姿をみるにつけ、お役に立つお手伝いはしたいと思っています。今はコロナ禍で、できないとは思いますが一年に一回はいろいろなふれあいの場があると、チラシ等配布したらどうか、又その折”スマホ教室など”開いてもらえないかと思います
- * 困った時の相談窓口が分かりにくい。市報に記載されていますがきちんと把握出来ていない人が多いと思います。高齢者なら地域包括支援センター、子育て困った時は_____、家庭でのめめ事は_____、生活費の支援を依頼したいときは_____、単発で家事を手伝って欲しい時は_____等々、市報や地区の掲示板等に明確に分かりやすくしていただきたい。市のホームページも自分が知りたい場所まで行きつくまで、時間がかかります
- * コロナ禍の中、昔の井戸端会議のようにご近所が何げなく話す！そんな機会がなくなり、となりの人はどんな人？どんな家族構成？そんなことがわからなくなり、お互いが口を開くことがはばかれる世の中、プライバシーも大事、個人情報も守らなければ、ならないけど・・・一日も早く地域活動が復活されますように。子供たちの声が町内に聞こえるように！見守っていききたいと思います。
- * 新しい家が建ち住民も増えた。ただ、町会や自治会に入会する人が少なく子供会等も小人数になった。地域づくりの難しさは住民同士のつながりが減って、協力していく体制がなりたっていないこと。今後行政を含めて対策が必要である。自主防災等住民同士が身近に参加できる機会を持ちたいものである。
- * ・住民各自が日頃のあいさつの励行指導 平常時から「向う三軒両隣」の付き合いは非常時・緊急時・高令時に助け助けられ合える。 ・公的支援活動は今後日本の人口減少（少子高令化）支出＞収入で 2～30 年後に今在の当り前の状況は破壊的に感ずる。又、ボランティア者は現在より減少 地球キボの温暖化のため自然災害で増加する。福祉支援対象者は国内外国共に増加する。
- * 地域のために行政は全てのことに関わっていくべきだと思います。実の所、行政と社協の役割が（分けかた）がわかりません。
- * ○さらなる高齢者が増える社会・地域になり安心・安全で住める環境作りが必要でありそれには若い世代の力強い支援が不可欠である。若い人材の確保啓発の推進。○市民の命と財産を守るために大災害・水害に強い街づくりと各地域の避難所の入所時に苦痛無く避難生活が出来るように備品の備蓄の充実の推進。
- * ・委員のなり手、協力者が増え、活動に対して地域の理解が広まるよう願っています。 ・引越して来られた方が様子わからない。防災を考える時、つながりがある方がいいと思う。町会に入って欲しい。
- * 社協、福祉委員のあり方に疑問を感じています。福祉委員をやらせていただいて 20 年以上になりますが、住環境、生活環境がずいぶん変わったと感じております。変わらないのは社協と福祉委員の活動でしょうか。ボランティアの名の元に、会費集め、会員募集、その他諸々のお手伝いと、福祉委員の皆様はその地区でがんばっています。が、内情は代わって下さる方がいないので仕方なく・・・が多いのではないのでしょうか。私もその 1 人です。世代交代がスムーズに行くためには、どうしたらいいのか？後継者を自分で捜さないと辞められない地区委員で変じゃないですか？
- * 問いに対する答えになっていないと思いますが、少し質問と意見を書かせて頂きます。まず質問です。毎年集める「会費」はどうして「寄付」と言っちゃいけないのでしょうか？会費なら多少の見返りがあると思うのですが、若い方から頂いた場合、何も返すものはありません。高齢の方や独居老人の方ならお弁当

等の配布もされているのに、申し訳なく思います。しかも会費を払っていない方にまで、高齢であるという理由だけで配布されています。増々会費を集めるのが苦痛になります。それから本当に何かで困っているという方の情報など5年間一度も聞いたことがありません。地域の特性もあると思いますが、私の地域では福祉委員と活動の必要性さえ感じません。（但し、児童の下校時の見守り等は必要と思います）

- * 委員が高齢化してきているので若い人にぜひ参加してほしい。
- * 自治会・社協など地域にかかわる団体組織に若い世代の参加（入会）が少なく加入世帯が減る一方なので若い人達が参加したいと思える行事とか入会するメリットを明確にしてお誘いする時に話し易い（説明しやすい）パンフレット等あれば良いと思います
- * 個人情報と言う、言葉がボランティア活動を一步引かせるような事が多々あるように思われます。
- * 個人情報保護法によって、プライバシーを重んずるあまり、情報が少ない。民生委員・児童委員などの他の機関との連携を強化していくことの大切さを思う。プライバシーは大切にしながらも、一步ふみこむことも大事と痛感する。地区福祉委員会のサロンなど行事に参加されている方以外の見守り方法として、直接訪問してお会い出来るような活動を考えていかねば！と思っている（訪問してもらって、話し相手をしてほしい方が、けっこうおられる中で何もないよりは何かきっかけがあった方が訪問し安い）
- * 皆が前向きに福祉に対応しようという姿勢を生み出せるような施策が必要では。何とか素晴らしい町にしようと思心掛けます。
- * 地域福祉の事をもっと多くの人に知ってもらう為に毎月広報誌にのせるとか高齢者が気がるに話だけして帰れるような居場所が必要だと思う。高齢者・子育ての方が元気になるよう協力したいと思っております。
- * 最近は近所づき合いも減り、活動がしにくくなっている。住民の情報が手に入らないので、新しい住人や特に賃貸に入っている人に関して手が差しのべにくいです。市と社協と密に連携して情報を下してほしい。軽い気持ちで前任者から引き継いだが、後にやってくれる人が見当らず困っている。
- * 地区町内会・地域福祉活動にかかわり 17 年となり、微力ながらも私に活動の場・機会を与えていただきましたことを感謝致します。多くの方に出会い、お話しをお伺いできました。そうした中で増々地域での助け合い心を通わすことの大切さを感じております。福祉活動にたずさわっている方々にもいろいろな考え方とらえ方があり、単純に「人のためになれば」と思うだけでは時に反対されたりすることもあります。「福祉」の場の中にもやはり「人間関係」の難しさを感じる事があります。（少々やりにくいという時があります）
- * もう、随分前になくなった回覧板の存在はよかったと思う。特に、ご近所の方が亡くなられたことを知らずにいるのは、とても寂しく辛い。以前は回覧板や掲示板で訃報を知ることができた。町内会新聞などがあるといいなと思う。昔にあった町会遠足（バスツアー）は年に1回、近所同志の親睦が深まる機会になったようだ。
- * 空き家放置問題で治安が心配。○市の施設が周囲に見当たらない。依って市の恩恵が全く感じられない 50 年住んで隣の市（箕面市）が羨ましい 端まで届く行政を望みます。各地（住宅内の上に）見られる防犯カメラ、避難場所の看板、等。
- * 現在の福祉委員は殆んどが高齢者です。地域イベント等で子育て中の若い方達にも参加して頂いていますが、福祉に対する理解がどれ程のものかわかりません。唯将来福祉活動に加わってもらえれば嬉しいです。自治会にも入会する人が少なく希薄な人間関係になって来ているのを憂えるばかりです
- * ○会費の還元金が少く思う様な活動が出来ない。○一般住民が福祉委員会の活動を全く知らない人が多く、福祉委員になってくれる人をさがす時、多大な苦労を要する。社協が PR 活動や委員選出に協力してほしい。

- * お手伝いをさせていただき数年になります。まだどのように動けばいいのかわかりません。もう一度詳しく勉強が出来るように指導をしていただきたいと思います。自分が年をとりおたずねすることに恥しいなどかからないことを考えてしまいますので、よろしくお願いします。
- * ・フードパントリーイベントに関して 本当に困っている方、手をさしのべないといけない方に（シングルマザー、生活困窮者、大学生一人暮らしなど）提供すべきところが、毎回同じ人がもらいに来られたり、本来の目的と違うような気がします。・告知方法、受取り方など、再検討頂きたい。
- * 元気で不自由なく暮らしている時は福祉に関心がないが、親が認知症になったときなど、困った時の相談窓口が今後はネットで探すようになると思う。地域サービスもネット検索に対応していてもらいたい。
- * 私達の伏見台は日常生活は車がないと不便なところではありますが、高齢者 認知症 障がいのある人達には大変優しい町であると思います。新しい町で若い人が活動出来ているのが強味です。特に街かどサロンは充実しているので一人でも多くの方が参加される事を願います。そのためには自治会との交流を通してサロンにつないでいけるよう地区福祉委員がサポート出来る体制がもっと充実していけたらと思います。個人情報がかかり邪魔をしているようにも思います。地区福祉の理解をもっと広げる機会も必要かと考えます。一部の人達の活動からみんなで支え合う方向にもっていったらいいのではないのでしょうか。
- * 実際 となり近所の方が仲がいい場合 情報が入ってくることもあります。福祉委員に直接家庭環境のことを話す方はいませんし私もふみこめません。社協のお金を集めに行っても家族構成など何うこともできず、75才以上の方がいらっしゃるのかさっぱりわかりません。昔からの名ボでおたずねしてもいつのまにか施設に入っていたり、その情報も私がたまたまおとなりさんなどと知りあいなら聞くこともできますがやりにくいです。又、日中はおばあちゃんだけでいらしてこんな方がだまされてさぎに合うのではと思い、民生委員さんにたずねてもあそこは息子さんと同居だからの一言でおしまいそんなものか・・・と思いながらもそのままです。毎年、年令があがり、名ボもかわって行くはずが個人情報の壁とかでそのまま、どこか不消化でやりにくいです。
- * 1人暮らしの老人が増えています。定期的に声かけしてあげてほしい。
- * 社協と民生の事業、活動の内容を見ると線引きがわからない。社協の方が今の時代に合っているように感じられます。特に民生児童委員はどんな活動をされているのか地域の中で全々見えません。民生委員の年令も高い方が多い。福祉を考えるなら社協だけで充分だと思われれます。長く民生委員をされた人は表彰をされますが、何もしなくて行政の指示通りにただしていればいいという考え方の人もいらっしゃるみたいです。この意見は私の地域だけかも知れませんが〜。とにかく時代は進んでいます。民生委員については一孝された方が、と思います
- * 昭和時代にあったような近所とのかかわりが大切だとわかっているのですが、残念ながら今はなるべく人とのかかわりを持ちたくない・個々でという風潮がみられる。そんな中で「犬の散歩とか花の水やり」を通して「あいさつ・声かけ」をしているうちに顔見知りとなり自然に声かけをしている、高齢者の方には特に心がけ「小さなことからコツコツ」精神でつみ重ねを大事にして微力ながら頑張ろうと思う。
- * ・高齢化・独り暮らしが多くなっている 現在支えあえるような地域でありたい ・福祉委員の方々も年齢が高く次につなげる人材がいらない
- * ・コロナ禍終息に向けて気持ちを緩める事なく全住民が協力しマナーを守る自覚を持ち続ける事が大事と感じています。 ・その上で各年代別ではなく一緒に交流出来る場が出来ると理想だと思います。
- * 素朴な疑問です。具体的にどのような内容であれば市役所（行政）の福祉課や社協へ相談すればよいのか、その線引きがよくわからない。行政と社協との連携されているのはどのようなことなのか見えてこない。そういうことを研修会の場でわかりやすく話をしてほしいと願う。サロンなど集まって何かをするという

場や行事も大切だと思います。しかし決められた時間、その会に参加するのは負担な人もいるので福祉センターで開催されている「つむぎ」?の会のように出入り自由な場がそれぞれ中学校区でもあっていいかと考えます。例えば無料休憩所のような感じで場所だけを提供し、自由に人と集えるような場です。家に友人を招くのは「ちょっとしんどいな」という人はその場で会うことが出来るし、子どもなら学校帰りにちょっと宿題をするなど特別に誰かに会うというのではないけれど、そこへ行けば誰れかいて話のひとつでもできるわというような場です。月に何回かの開催でそれが定着すると地域のいろいろな情報を集まる場にもなり気になる人に何か関っていくことができるのではないかと・・・また開催場所の一角でおたのしみ講座（簡単なものづくり、詐欺に合わない為の話、地区福祉委員などの中で特技のお持ちの方の講座（どこかでおいしいコーヒーの入れ方なんてやっていました）を開いてもよいのではないかと思います。講師に来て下さる方はボランティアで参加される方には実費のみ負担してもらうようなかたちで）

* 民生委員をしています。より早く支援につなげるには情報が必要です。最近のご近所の方が亡くなられたり、入院されたりしてもなかなか伝わって来ません。私は仕事もあり、訪問する機会も少ないと思います。昨年からコロナ禍で配偶者を亡くされた高齢者の方が独居になられるケースもあると思います。なるべく早くごあいさつに伺いたいと思いますが行政から、さしつかえの無い程度の情報の提供があっても良いのではないかと思います。

* お互いが尊重しあえる関係づくりをめざしたい。

* 行政、社協、それぞれに福祉計画を立てられているが、立派な冊子をそれぞれからもらっても、とまどうばかりです。（これからは一体でして下さるとのこと）計画がどこまで実現できたかを、示してもらう方がわかりやすいです。連携して頂いて、住民を導いてもらえたら有難いです。

* 高齢で1人住いの方が増加しています その中には本当に身寄りが無い方もいらっしゃいます。地域で気を付けて見守っていますが…中までは入れません 保健証を使用しているか、郵便物をちゃんと見ているか、その様な方に目を向けてほしい。

* ○自治会についての情報、共有 連絡網などラインなどグループを作ってまわして行ってほしい。班長などあるとわずらわしいし、会議など時間をとられるので…わりと自治会に入らない方が多い。○民生委員・地区福祉委員って何?って聞かれる事が多々あります。そもそも、その様な委員は10代~40代は存在すらしない方が多い。PTAなど学校関係の方々と年に1、2回は交流を持ってもよいのでは。地域の方なので地区福祉の活動も知っていただける。○自治会に加入メリットを伝えて(作ってほしい)・地域で防災や危険ヶ所などは連絡会にお伝えするとすぐに動いていただけること(改善していただける)・震災時は、特に並ばなくとも、水、食料、をとりおきしてもらえるなど(家族世帯数を自治会に伝えておく)メリットをだすべき誘導や食料作り配布などその間に安否確認などボランティアを有効にできると思います。・自治会に加入することで、目にみえる特典があればお若い方々も入っていただけたらと思います。○福祉バス 大きな通り道の方々しか利用できていない、最寄りのバス停、そのバス停まで距離があるので、高齢者は足が悪い方が多いので利用できない。

* 会館に犬とかかかってにトランプとかしてもいいのですか

* 地域の皆さん同士が知り合いになるのが安心・安全に結びつく事だと考えています。まずは会えば挨拶で“おはようございます”“こんにちは”からスタートです。それも日々の継続が重要と思っています。継続すれば相手も挨拶を返してくれます。そんな簡単な手段で“安全、安心の輪”が広がるとしています。そうしていけば困っている人の映像が見えてくるはずで。それを率先して行うのが民生委員・児童委員/社会福祉協議員の務めと考えています。また行政、福祉協議会での同上委員の窓口を委員皆に周知徹底しておけば“安心・安全の輪”が強固になると信じています。（他組織との連携の明確化とアナウンス

の重要性および情報の共有化) 昨年、国勢調査員で地域の家庭を訪問しました。そこで感じたのはいかに老夫婦・独居老人の方が多いかです。その経験を活かして定期的にその方々の家庭に訪問し声かけをしていきたいと考えています。そうすれば早期に問題を発見し、色々な対処が出来るのではないかと考えています。当然町内会の皆さんと情報共有は必要と考えています。(有効は情報入手)

* 地域のつながり

* 委員の高齢化が進み若い方の参加が困難。長く住んでおられる高齢者との関係は保たれているが若い人や子育て中(子供会に入っていない)の特に一人親世帯との接点がなく心配。マンション等の住人(家族構成)の情報が少ない。

* 年齢層にかかわらず高齢者から学生子供まで、みんなで助けあえる町になりたいですね。

* 地域の人同志、誘い合って自由におしゃべりしたり、教え合ったりできる場があるといいと思います。(会合的なものでなくあくまでも自由に)

* 1.福祉バスの本数をもう少し増してほしい。阪急バス停から遠い高齢者は大変困ります。バスが通らない地域を特に循環させて下さい。会館に行く時、病院に行く時など使いたいたいが、あまりに本数もバス停も少なく役にたちません。高齢者が動くには、足が一番必要です。少しでも活動しやすくするため、ひきこもらないため、福祉バス、福祉タクシーの充実を是非ともご検討お願いします。

* 福岡のある町で 80 才くらいのおじいさんが小学校低学年の女の子の頭をなでて「可愛いね 何年生」と言われたというのが注意して欲しいという形でローカルニュースで流れたそうだが、このような町にはしたくないものです。

* ①研修：経験の有無にかかわらず必要 ②活動内容：民生委員は自分も含め地域の人からの依頼に対して巾広く、何にでも対応するものと考え。そのため市役所・社協の専門職の人は多方面に対応できるよう人数、内容とも充実してほしい。市役所では各課横のつながりをもっとスムーズに出来るよう希望する。③市役所・社協等公共の窓口、対応により活動の方向が決まることもある。必要な情報は早目に教えてほしい。④団体・グループ等各々発展状況により活動の方向性、活発か 又とどこおっているか、がみられるが、いずれもリーダーやメンバーのかかわり方により、スムーズに変化していく。今後とも良い方向に向くよう希望する。⑤地区福祉は社協本部の現場と考えるが、名のとおり、地域の特性が現れやすい。福祉委員は自分のかかわる対象を自分で決めることができる。長くかかわり、経験豊富な人には交流会等で発表される機会があると思うが福祉施設等の専門職の発表も聞きたい。各々大切なことと考える。⑥民生委員の活動が、見えにくいのは「表にでない」(表に出さない事を扱う 個人的なことなど)という思いが一般の人々の方にあると考える。例えば 1 日・1 週間・30 日等時間を区切って学生や時には広く社会人にも体験してもらうことで理解を広めてはどうか? ⑦多くの福祉関係や各地区の神社・お寺、自治会、防犯 etc 等の各々の団体が活動(イベント・アトラクション含む)すること(できること)が安心な町づくりにつながる。

* 基本的には人と人同士の人間関係作りが大切と思う。最近では、他人に干渉されたくない、孤立気味の人も多くなり、近所付き合いも希薄になりがち。安心して暮らせるという事は困った時に助け合える環境と言う事であり、日頃からの人間関係作りが必要です。少々おせっかいと思われるかも知れないが、福祉委員として話をきいたりする機会も持ち、話やすい関係を作りたいと思っています。地域で行うおしゃべりサロンなどもそれを広げられる機会となり有意義だと思います。

* 現在「地域」には①自治会②消防団(防犯防災)③地区民生・児童委員④社会福祉協議会地区委員会⑤地域コミュニティ推進協議会⑥地域支え合い推進協議体(池田市においては未だ?)と行政の縦割りがそのまま落とし込まれていますが、地域においては各々の使命・目標はおよそ一つに集約(誰もが安心して暮らせる住みよい地域づくり)されるにもかかわらず、役員やメンバーの兼務はあったとしても個別の活動が

ややもすれば不完全燃焼となっていないでしょうか。地域においては個々別々の組織と活動の集約一元化が望まれると考えます。その上で、イ・各々の専門分野を担うべく専門リーダーを設ける ロ・部門間の壁を無くし情報の一元化・共有化をする ハ・各部門のメンバーは自分の専門分野をフランチャイズとしながらも、他の全ての部門のメンバーを兼務する ニ・参画するリーダーやメンバーに対しては何某かのインセンティブが必要（金銭に限らない。参画意識の高揚＝例えば制服 法被（はっぴ）でもよい。ボランティアに「おんぶにだっこ」では限界を迎えつつある） ホ・団体（協議体）のオーソライズ化（法人化） 予算措置と検証機能 コンプライアンスが必要 以上によってお困りの方の支援・相談 緊急災害時の避難支援 避難誘導 生活困窮者 高齢者支援 高齢者介護 就学支援等の他 全ての支援・支え合いがより綿密となり自助・互助・共助・公助かうまく機能する地域づくりの活動が可能と考えますが……。 ※全てはまず日常生活の中での見守り（監視ではない）から。仮称「地域まちづくり・支え合い推進協議体」

* 地域で支えあって、いつまでも暮らしていくために地域住民が、こんな活動があったらとか、地域に皆さんが気軽につどえる場所があり、いつもたれかがいてくれるそんな場所があれば安心して暮らしていけると思います。しかし、そんな場所を作るためには、資金やどこから始めればよいのかなどのノウハウも分からないのではないのでしょうか？ ノウハウや資金又は場所の提供などの支援を行政や社会福祉協議会にお願いしたいと思います。

3. 「民生委員・児童委員のみ」・「地区福祉委員のみ」・「兼務」
各回答比較(クロス集計)

問1 あなたのことについて

(1) 性別

(1) 性別

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	男性	実数	39	66	12
		%	52.7%	24.1%	15.6%
2	女性	実数	35	208	65
		%	47.3%	75.9%	84.4%
3	その他	実数	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%
	有効合計	実数	74	274	77
		%	100.0%	100.0%	100.0%
	無回答		4	15	0
		総合計		78	289

* 「地区福祉委員のみ」「兼務」は女性が7～8割を占めているが、「民生委員・児童委員のみ」は男性が5割を超えている。

(2) 年齢

（エ） 年齢別

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	20歳代	実数	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%
2	30歳代	実数	1	0	0
		%	1.3%	0.0%	0.0%
3	40歳代	実数	1	4	3
		%	1.3%	1.4%	3.9%
4	50歳代	実数	7	14	10
		%	9.0%	4.9%	13.2%
5	60歳代	実数	34	69	30
		%	43.6%	24.0%	39.5%
6	70歳代	実数	35	169	33
		%	44.9%	58.9%	43.4%
7	80歳代	実数	0	31	0
		%	0.0%	10.8%	0.0%
8	90歳代以上	実数	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%
	合計	実数	78	287	76
		%	100.0%	100.0%	100.0%
		無回答		0	2

* 「地区福祉委員のみ」のと回答した方の年齢層が若干高い。

(3) 職業

		民生委員・児童委員のみ		地区福祉委員のみ	兼務
1	正規の職員・従業員	実数	5	12	3
		%	6.4%	4.2%	3.9%
2	契約社員や派遣社員	実数	3	3	1
		%	3.8%	1.1%	1.3%
3	パート・アルバイト	実数	14	38	20
		%	17.9%	13.3%	26.3%
4	自営業およびその家族従業員	実数	17	11	8
		%	21.8%	3.9%	10.5%
5	家事専業	実数	12	121	27
		%	15.4%	42.5%	35.5%
6	学生	実数	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%
7	無職	実数	22	91	13
		%	28.2%	31.9%	17.1%
8	その他	実数	5	9	4
		%	6.4%	3.2%	5.3%
	合計	実数	78	285	76
		%	100.0%	100.0%	100.0%
		無回答			4

* 「地区福祉委員のみ」「兼務」は、「家事専業」が多いが、「民生委員・児童委員のみ」は、「無職」と「自営業およびその家族従業員」が多い。

(4) 一緒にお住まいの方

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	ひとり暮らし	実数	3	50	5
		%	3.9%	17.5%	6.5%
2	夫婦のみ	実数	37	136	36
		%	48.7%	47.6%	46.8%
3	二世帯（親と子）	実数	33	75	28
		%	43.4%	26.2%	36.4%
4	三世帯（親と子と孫）	実数	3	20	7
		%	3.9%	7.0%	9.1%
5	兄弟・姉妹	実数	0	2	0
		%	0.0%	0.7%	0.0%
6	その他	実数	0	3	1
		%	0.0%	1.0%	1.3%
合計		実数	76	286	77
		%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答			2	3	0

* 属性によるちがいはほとんどない。

(5) お住まいの小学校区

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	池田校区	実数	10	27	13
		%	12.8%	9.4%	16.9%
2	五月丘校区	実数	5	5	2
		%	6.4%	1.7%	2.6%
3	細郷校区（旧伏尾台）	実数	7	31	3
		%	9.0%	10.8%	3.9%
4	細郷校区（旧細河）	実数	8	14	0
		%	10.3%	4.9%	0.0%
5	秦野校区	実数	14	35	5
		%	17.9%	12.2%	6.5%
6	呉服校区	実数	8	50	12
		%	10.3%	17.5%	15.6%
7	神田校区	実数	4	23	8
		%	5.1%	8.0%	10.4%
8	緑丘校区	実数	8	12	3
		%	10.3%	4.2%	3.9%
9	北豊島校区	実数	4	34	14
		%	5.1%	11.9%	18.2%
10	石橋南校区	実数	1	18	13
		%	1.3%	6.3%	16.9%
11	石橋校区	実数	9	37	4
		%	11.5%	12.9%	5.2%
合計		実数	78	286	77
		%	100.0%	100.0%	100.0%
無回答				3	

* 「石橋南地区」はほとんどの民生委員・児童委員が地区福祉委員を兼務しており、「池田地区」「呉服地区」「神田地区」「北豊島地区」も兼務が多いことがわかる。

(6) 住居形態

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	一戸建ての持ち家	実数	63	236
		%	80.8%	82.2%
2	分譲マンション	実数	8	35
		%	10.3%	12.2%
3	民間借家・賃貸マンションアパート	実数	6	9
		%	7.7%	3.1%
4	市営・府営の賃貸住宅	実数	0	3
		%	0.0%	1.0%
5	社宅・寮	実数	0	0
		%	0.0%	0.0%
6	その他	実数	1	4
		%	1.3%	1.4%
	合計	実数	78	287
		%	100.0%	100.0%
無回答			2	

* 属性によるちがいはほとんどない。

(7) 現在の地域での居住年数

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	生まれてからずっと	実数	15	29	13
		%	19.2%	10.1%	16.9%
2	3 年未満	実数	0	0	0
		%	0.0%	0.0%	0.0%
3	3 年以上 1 0 年未満	実数	1	4	3
		%	1.3%	1.4%	3.9%
4	1 0 年以上 2 0 年未満	実数	7	26	4
		%	9.0%	9.0%	5.2%
5	2 0 年以上	実数	55	229	57
		%	70.5%	79.5%	74.0%
	合 計	実数	78	288	77
		%	100.0%	100.0%	100.0%
		無回答			1

* 「民生委員・児童委員のみ」「兼務」は、「生まれてからずっと」の比率が若干高く、「地区福祉委員のみ」は、「20年以上」の比率が若干高い。

問2・問3 全体報告書参照

問4 自治会・町内会に加入しているか。

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	加入している	実数	62	227	57
		%	79.5%	79.4%	74.0%
2	住んでいる地域に自治会・町内会はあるが加入していない	実数	5	14	6
		%	6.4%	4.9%	7.8%
3	住んでいる地域に自治会・町内会がない	実数	11	45	14
		%	14.1%	15.7%	18.2%
	合計	実数	78	286	77
		%	100.0%		
		無回答			3

* 属性によるちがいはほとんどない。

問5 民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動以外、現在どのような活動に参加しているか。
〔複数回答〕

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	自治会・町内会	実数	48	143	44
		%	63.2%	50.5%	57.9%
2	婦人会	実数	1	29	12
		%	1.3%	10.2%	15.8%
3	自主防災会	実数	21	63	22
		%	27.6%	22.3%	28.9%
4	友愛クラブ（老人クラブ）	実数	4	40	6
		%	5.3%	14.1%	7.9%
5	子ども会	実数	1	7	4
		%	1.3%	2.5%	5.3%
6	PTA活動	実数	1	5	4
		%	1.3%	1.8%	5.3%
7	ボーイスカウト・ガールスカウト	実数	1	2	0
		%	1.3%	0.7%	0.0%
8	青少年指導員	実数	2	5	3
		%	2.6%	1.8%	3.9%
9	保護司会・更生保護女性会	実数	0	4	2
		%	0.0%	1.4%	2.6%
10	スポーツ団体	実数	8	26	3
		%	10.5%	9.2%	3.9%
11	地域コミュニティ推進協議会	実数	11	43	10
		%	14.5%	15.2%	13.2%
12	ボランティアグループ	実数	8	38	9
		%	10.5%	13.4%	11.8%
13	個人ボランティア	実数	2	20	4
		%	2.6%	7.1%	5.3%
14	NPO法人の活動	実数	3	21	5
		%	3.9%	7.4%	6.6%
15	NGOの活動	実数	0	1	1
		%	0.0%	0.4%	1.3%
16	特になし	実数	10	41	15
		%	13.2%	14.5%	19.7%
17	その他	実数	14	27	6
		%	18.4%	9.5%	7.9%
無回答			2	6	1
		n=	76	283	76

* 「民生委員・児童委員のみ」に男性が多いため、「婦人会」の参加率が低い。

問6 全体報告書参照

問7 民生委員・児童委員、地区福祉委員になった感想〔複数回答〕

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	ご近所のつながりができた	実数 40 % 52.6%	190 67.1%	51 67.1%
2	地域について考えるようになった	実数 52 % 68.4%	179 63.3%	55 72.4%
3	やりがいを感じるようになった	実数 7 % 9.2%	45 15.9%	15 19.7%
4	健康に良いと感じるようになった	実数 0 % 0.0%	23 8.1%	1 1.3%
5	福祉についての理解が深まった	実数 38 % 50.0%	127 44.9%	46 60.5%
6	人間関係がわずらわしいと感じた	実数 6 % 7.9%	13 4.6%	2 2.6%
7	肉体的に負担があると感じた	実数 4 % 5.3%	13 4.6%	3 3.9%
8	時間的に負担があると感じた	実数 19 % 25.0%	35 12.4%	11 14.5%
9	経済的に負担があると感じた	実数 0 % 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
10	福祉に疑問を感じた	実数 5 % 6.6%	18 6.4%	6 7.9%
11	その他	実数 4 % 5.3%	9 3.2%	6 7.9%
	無回答	2	6	1
		n= 76	283	76

* 上位の選択肢は属性による違いがほとんどなかったが、「民生委員・児童委員のみ」に「時間的に負担があると感じた」（25.0%）の回答が若干多く、「兼務」に「やりがいを感じるようになった」（19.7%）が若干多い。

問8 地区福祉委員会はどうのような活動をする団体だと思うか。〔複数回答〕

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	子ども・高齢者・障がい者を主な対象に、福祉活動に取り組む団体	実数 30 % 44.8%	144 50.3%	33 43.4%
2	分野にかかわらず、支援が必要な人を対象に、福祉活動に取り組む団体	実数 33 % 49.3%	142 49.7%	42 55.3%
3	防犯・防災・環境などのまちづくり全般に取り組む団体	実数 15 % 22.4%	59 20.6%	7 9.2%
4	支援が必要な人を対象に、簡単な家事援助など日常生活の支援をする団体	実数 7 % 10.4%	14 4.9%	7 9.2%
5	支援が必要な人を対象に、見守り声かけを行う団体	実数 38 % 56.7%	160 55.9%	44 57.9%
6	ご近所同士のつながりをつくる団体	実数 11 % 16.4%	68 23.8%	19 25.0%
7	福祉のこころや意識を育てる団体	実数 8 % 11.9%	42 14.7%	10 13.2%
8	地域の困りごとを発見する団体	実数 6 % 9.0%	41 14.3%	11 14.5%
9	地域の困りごとを解決する団体	実数 2 % 3.0%	13 4.5%	1 1.3%
10	その他	実数 1 % 1.5%	3 1.0%	1 1.3%
	無回答	11	3	1
		n= 67	286	76

* 上位の選択肢は属性による違いがほとんどなかったが、他の属性と比較して「兼務」に「防犯・防災・環境などのまちづくり全般に取り組む団体」（9.2%）の回答が少ない。

問9【民生委員・児童委員のみ】民生委員・児童委員の活動で大変なこと、または困っていることは何か。〔複数回答〕

		民生委員・児童委員のみ		兼務	
1	担当件数が多いなど、忙しすぎる	実数	3	7	
		%	3.9%	9.1%	
2	仕事や家庭と民生委員・児童委員活動の両立が難しい	実数	18	12	
		%	23.7%	15.6%	
3	個別のケースにどこまで関わればいいかわからない	実数	50	49	
		%	65.8%	63.6%	
4	関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い	実数	10	9	
		%	13.2%	11.7%	
5	支援が必要な対象者に拒否される	実数	4	7	
		%	5.3%	9.1%	
6	支援対象者の家族の理解・協力が得られない	実数	5	1	
		%	6.6%	1.3%	
7	地域の理解・協力が得られない	実数	6	4	
		%	7.9%	5.2%	
8	募金活動などの活動が負担になる	実数	8	8	
		%	10.5%	10.4%	
9	行政の支援が不十分	実数	10	12	
		%	13.2%	15.6%	
10	関係機関（社協・地域包括支援センターなど）の支援が不十分	実数	4	0	
		%	5.3%	0.0%	
11	行政から必要な個人情報が提供されない	実数	24	30	
		%	31.6%	39.0%	
12	活動に関する経費が負担になる	実数	1	1	
		%	1.3%	1.3%	
13	福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい	実数	6	7	
		%	7.9%	9.1%	
14	委員同士の人間関係が円滑でない	実数	2	0	
		%	2.6%	0.0%	
15	特に大変なこと・困ったことはない	実数	13	15	
		%	17.1%	19.5%	
16	その他	実数	3	3	
		%	3.9%	3.9%	
無回答			2	0	
		n=	76	77	

* 属性によるちがいはほとんどない。

問10【民生委員・児童委員のみ】 民生委員・児童委員の活動をしやすいするには、何が必要か。

〔複数回答〕

			民生委員・ 児童委員のみ	兼務
1	研修の充実	実数	9	5
		%	11.8%	6.5%
2	活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供	実数	26	43
		%	34.2%	55.8%
3	行政からの必要な個人情報の提供	実数	30	38
		%	39.5%	49.4%
4	活動費の充実	実数	4	1
		%	5.3%	1.3%
5	民生委員・児童委員活動に対する地域の理解促進	実数	20	14
		%	26.3%	18.2%
6	行政の助言・相談支援などのサポート体制の充実	実数	21	18
		%	27.6%	23.4%
7	社協からの支援体制の充実	実数	3	3
		%	3.9%	3.9%
8	地区福祉委員会との連携	実数	15	19
		%	19.7%	24.7%
9	自治会・町内会などの地域団体との連携	実数	25	14
		%	32.9%	18.2%
10	地域コミュニティ推進協議会との連携	実数	4	4
		%	5.3%	5.2%
11	民生委員・児童委員協議会の活動の充実	実数	3	6
		%	3.9%	7.8%
12	民生委員・児童委員同士の交流・情報交換	実数	18	23
		%	23.7%	29.9%
13	その他	実数	2	4
		%	2.6%	5.2%
無回答・システムエラー			2	0
			n=	77

「民生委員・児童委員のみ」では、「行政からの必要な個人情報の提供」39.5%で一番多く、次いで「活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供」34.2%となっている。「兼務」では、上位の順番が逆転し「活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供」55.8%、「行政からの必要な個人情報の提供」49.4%がいずれも半数を占めている。「自治会・町内会などの地域団体との連携」については、「民生委員・児童委員のみ」の回答が32.9%、「兼務」の回答が18.2%と明らかな差がありました。

問11【地区福祉委員のみ】地区福祉委員会の活動で大変なこと、または困っていることは何か。

〔複数回答〕

		地区福祉委員 のみ	兼務	
1	サロンなどの行事が多く、忙しい	実数	9	10
		%	3.1%	14.1%
2	仕事や家庭と地区福祉委員会活動の両立が難しい	実数	22	12
		%	7.6%	16.9%
3	個別のケースにどこまで関わればいいのかわからない	実数	99	13
		%	34.3%	18.3%
4	関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い	実数	5	3
		%	1.7%	4.2%
5	支援が必要な対象者に拒否される	実数	8	3
		%	2.8%	4.2%
6	支援対象者の家族の理解・協力が得られない	実数	7	2
		%	2.4%	2.8%
7	地域の理解・協力が得られない	実数	20	5
		%	6.9%	7.0%
8	社協業務・募金活動などの活動が負担になる	実数	50	9
		%	17.3%	12.7%
9	社協の支援が不十分	実数	12	1
		%	4.2%	1.4%
10	関係機関（行政・地域包括支援センターなど）の支援が不十分	実数	14	5
		%	4.8%	7.0%
11	行政・社協から必要な個人情報が提供されない	実数	33	8
		%	11.4%	11.3%
12	活動に関する経費が負担になる	実数	2	1
		%	0.7%	1.4%
13	福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい	実数	19	6
		%	6.6%	8.5%
14	地区福祉委員会内の人間関係が円滑でない	実数	9	3
		%	3.1%	4.2%
15	特に大変なこと・困ったことはない	実数	114	27
		%	39.4%	38.0%
16	その他	実数	32	13
		%	11.1%	18.3%
無回答・システムエラー			0	6
		n=	289	71

「地区福祉委員のみ」と「兼務」両方で一番多い回答が「特に大変なこと・困ったことはない」（39.4%と38.0%）
 ＊ だったことが特徴。一方「地区福祉委員のみ」では、「個別ケースにどこまで関わればいいのか分からない」34.3%の回答も多い。

問12【地区福祉委員のみ】地区福祉委員会の活動をしやすいするには、何が必要か。

〔複数回答〕

		地区福祉委員 のみ		兼務	
1	研修の充実	実数	26	5	
		%	9.8%	6.8%	
2	組織体制の整備・刷新	実数	27	7	
		%	10.2%	9.6%	
3	活動のマンネリ化防止	実数	70	16	
		%	26.4%	21.9%	
4	地区福祉委員会内の情報交換・話し合いなどの合意形成の促進	実数	60	19	
		%	22.6%	26.0%	
5	地域課題や地域住民のニーズを把握	実数	103	25	
		%	38.9%	34.2%	
6	行政からの必要な個人情報の提供	実数	17	8	
		%	6.4%	11.0%	
7	地区福祉委員会活動に対する地域の理解促進	実数	47	7	
		%	17.7%	9.6%	
8	地区福祉委員のなり手・協力者の増加	実数	144	46	
		%	54.3%	63.0%	
9	活動費の充実	実数	11	1	
		%	4.2%	1.4%	
10	社協の助言・相談支援などのサポート体制の充実	実数	10	5	
		%	3.8%	6.8%	
11	行政からの支援体制の充実	実数	17	2	
		%	6.4%	2.7%	
12	民生委員・児童委員協議会との連携	実数	25	12	
		%	9.4%	16.4%	
13	関係機関（行政・地域包括支援センターなど）との連携強化	実数	11	4	
		%	4.2%	5.5%	
14	自治会・町内会などの地域団体との連携	実数	41	16	
		%	15.5%	21.9%	
15	地域コミュニティ推進協議会との連携	実数	16	4	
		%	6.0%	5.5%	
16	その他	実数	8	2	
		%	3.0%	2.7%	
無回答・システムエラー			24	4	
		n=	265	73	

* 属性によるちがいはほとんどない。

問13 担当地域の中で感じる課題〔複数回答〕

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務	
1	困ったときにすぐに相談できる人がいない	実数	5	10	3
		%	6.5%	3.7%	3.9%
2	近所づきあいが少なくなっている	実数	46	137	41
		%	59.7%	50.9%	53.9%
3	自治会・町内会に加入する人が減っている	実数	45	168	41
		%	58.4%	62.5%	53.9%
4	地域の活動が活発でない	実数	19	59	19
		%	24.7%	21.9%	25.0%
5	世代間の交流が少ない	実数	40	122	40
		%	51.9%	45.4%	52.6%
6	地域の中で集まれる拠点が少ない	実数	10	29	14
		%	13.0%	10.8%	18.4%
7	移動手段が整っていない	実数	6	6	6
		%	7.8%	2.2%	7.9%
8	災害時の安否確認体制が十分でない	実数	29	59	39
		%	37.7%	21.9%	51.3%
9	治安が悪くなっている	実数	3	1	1
		%	3.9%	0.4%	1.3%
10	地域から孤立している人がいる	実数	12	39	13
		%	15.6%	14.5%	17.1%
11	経済的に困窮している人が増えている	実数	2	6	7
		%	2.6%	2.2%	9.2%
12	サービスに結びついていない人がいる	実数	10	45	15
		%	13.0%	16.7%	19.7%
13	その他	実数	3	9	5
		%	3.9%	3.3%	6.6%
無回答			1	20	1
		n=	77	269	76

* 属性によるちがいはほとんどない。

問14 担当されている地域の中で、気にかかる人、見守りや支援が必要な人がいるか。

〔複数回答〕

〔複数回答〕		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務	
1	高齢者のみ世帯	実数	57	168	65
		%	74.0%	61.1%	84.4%
2	認知症の人	実数	21	59	32
		%	27.3%	21.5%	41.6%
3	障がいのある人	実数	15	28	15
		%	19.5%	10.2%	19.5%
4	育児放棄や児童虐待の疑いがある世帯	実数	7	4	11
		%	9.1%	1.5%	14.3%
5	高齢者等の虐待の疑いがある世帯	実数	2	2	3
		%	2.6%	0.7%	3.9%
6	ひきこもりの人	実数	15	32	14
		%	19.5%	11.6%	18.2%
7	生活困窮者	実数	5	12	9
		%	6.5%	4.4%	11.7%
8	そのような人はいない	実数	3	22	3
		%	3.9%	8.0%	3.9%
9	わからない	実数	16	76	5
		%	20.8%	27.6%	6.5%
10	その他	実数	4	9	5
		%	5.2%	3.3%	6.5%
無回答			1	14	0
		n=	77	275	77

* すべての属性で「高齢者のみ世帯」の回答が一番多くなっているが、「兼務」で「認知症の人」（41.6％）の回答が多い。また「民生委員・児童委員のみ」と「地区福祉委員のみ」で「わからない」の回答が2割を超えている。

問15 地域住民の困りごとの相談を受けたことがあるか。

			民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	相談を受けたことがある	実数	53	128	66
		%	69.7%	47.2%	85.7%
2	相談を受けたことはない	実数	23	143	11
		%	30.3%	52.8%	14.3%
	合計	実数	76	271	77
		%	100.0%	100.0%	100.0%
	無回答		2	18	0

* 「兼務」で「相談を受けたことがある」（85.7％）8割を超えている。一方「地区福祉委員のみ」で「相談を受けたことはない」（52.8％）が半数を超えている。

受けたことがある場合、どのような経路で受けたか。〔複数回答〕

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	本人から	実数	35	79
		%	66.0%	61.7%
2	家族から	実数	9	21
		%	17.0%	16.4%
3	近所の人から	実数	32	59
		%	60.4%	46.1%
4	自治会・町内会の役員から	実数	8	7
		%	15.1%	5.5%
5	保育所・幼稚園・小学校・中学校から	実数	4	3
		%	7.5%	2.3%
6	社会福祉協議会から	実数	4	3
		%	7.5%	2.3%
7	地域包括支援センターから	実数	16	7
		%	30.2%	5.5%
8	ケアマネ事業所・障害者相談支援事業所から	実数	5	6
		%	9.4%	4.7%
9	民生委員・児童委員から	実数	12	19
		%	22.6%	14.8%
10	地区福祉委員から	実数	8	15
		%	15.1%	11.7%
11	その他	実数	1	6
		%	1.9%	4.7%
無回答			0	0
		n=	53	128

* 属性による大差はないが、「民生委員・児童委員のみ」において「地域包括支援センターから」の比率が高い。

問16 民生委員・児童委員、地区福祉委員として困りごとを抱えている住民をどのような機会に把握することが多いか。〔複数回答〕

		民生委員・ 児童委員のみ	地区福祉委員 のみ	兼務
1	地域団体などの会合や行事の中で把握	実数	25	64
		%	32.1%	23.8%
2	地区福祉委員会のサロン行事に参加している中で把握	実数	4	74
		%	5.1%	27.5%
3	民生委員・児童委員や地区福祉委員会などの見守り・声かけ活動の中で把握	実数	41	62
		%	52.6%	23.0%
4	日常生活の中で把握	実数	40	115
		%	51.3%	42.8%
5	今まで把握したことはない	実数	12	53
		%	15.4%	19.7%
6	その他	実数	8	6
		%	10.3%	2.2%
無回答			0	20
		n=	78	269

* 「兼務」において「見守り・声かけ活動の中で把握」76.6％と突出して多く、「地区福祉委員のみ」では、「日常生活の中で把握」42.8％が一番多い。

問17 ともに支え合う地域づくりをすすめていくうえで、行政と社協の役割として重要なことはどのようなことだと思いますか。

		民生委員・児童委員のみ		地区福祉委員のみ		兼務	
		(行政)	(社協)	(行政)	(社協)	(行政)	(社協)
1	困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供	実数	49	38	140	111	49
		%	64.5%	50.0%	52.0%	41.3%	65.3%
2	身近なところで住民どうしが相談し合える場の充実	実数	18	28	44	111	18
		%	23.7%	36.8%	16.4%	41.3%	24.0%
3	専門職による相談窓口の充実	実数	41	22	149	40	46
		%	53.9%	28.9%	55.4%	14.9%	61.3%
4	学校教育や生涯学習等の場での福祉教育の充実	実数	40	8	118	22	37
		%	52.6%	10.5%	43.9%	8.2%	49.3%
5	地域住民の活発な交流や相互扶助の促進	実数	13	36	51	120	11
		%	17.1%	47.4%	19.0%	44.6%	14.7%
6	地域における福祉活動の意義・重要性の啓発	実数	17	29	55	108	16
		%	22.4%	38.2%	20.4%	40.1%	21.3%
7	住民が主体となった福祉活動をすすめるための環境整備	実数	29	16	93	80	21
		%	38.2%	21.1%	34.6%	29.7%	28.0%
8	ボランティア活動を促進するための支援	実数	27	24	78	94	28
		%	35.5%	31.6%	29.0%	34.9%	37.3%
9	福祉活動をけん引する人やリーダーの育成	実数	26	26	95	100	29
		%	34.2%	34.2%	35.3%	37.2%	38.7%
10	住民が気軽に利用できる集いの場の充実	実数	22	27	85	102	28
		%	28.9%	35.5%	31.6%	37.9%	37.3%
11	誰もが暮らしやすい生活環境づくり	実数	46	13	144	35	36
		%	60.5%	17.1%	53.5%	13.0%	48.0%
12	地域住民どうしが相互に交流したり、気軽に相談したりできる場の充実	実数	20	34	62	114	29
		%	26.3%	44.7%	23.0%	42.4%	38.7%
13	地域における福祉活動の拠点整備	実数	24	21	57	81	26
		%	31.6%	27.6%	21.2%	30.1%	34.7%
14	地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助	実数	36	7	117	42	30
		%	47.4%	9.2%	43.5%	15.6%	40.0%
15	ひきこもりの方やその家族のための支援の充実	実数	30	25	116	57	25
		%	39.5%	32.9%	43.1%	21.2%	33.3%
16	経済的に困窮している方への支援	実数	48	15	151	18	45
		%	63.2%	19.7%	56.1%	6.7%	60.0%
17	認知症の方などの権利擁護の充実	実数	37	11	119	36	27
		%	48.7%	14.5%	44.2%	13.4%	36.0%
18	その他	実数	2	1	5	5	3
		%	2.6%	1.3%	1.9%	1.9%	4.0%
	無回答		2	2	20	20	2
	n=		76	76	269	269	75

* 行政については、どの属性においても「困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供」「専門職による相談窓口の充実」「経済的に困窮している方への支援」「誰もが暮らしやすい生活環境づくり」が上位の回答となっている。

* 社協については、どの属性においても「困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供」「地域住民の活発な交流や相互扶助の促進」「地域住民どうしが相互に交流したり、気軽に相談したりできる集いの場の充実」が上位の回答となっている。「兼務」では「住民が気軽に利用できる集いの場の充実」も上位回答となっていることが特徴。

民生委員・児童委員、地区福祉委員会委員のみなさまには、日頃から池田市の地域福祉推進にご尽力いただき厚くお礼申し上げます。

さて、池田市と池田市社会福祉協議会では、社会情勢と地域の状況に応じた地域福祉を推進していくため、第4期池田市地域福祉計画・第5次池田市地域福祉活動推進計画を一体で策定することといたしました。

計画の策定にあたり、地域で実際に活動されている民生委員・児童委員、地区福祉委員のみなさまのご意見をお伺いするため意識調査を実施させていただきます。

この調査に対する回答は統計的に処理し、回答者が特定されることはありません。

ご多忙のところ恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年9月

池田市・池田市社会福祉協議会

【記入にあたってのお願い】

1. この調査票には、民生委員・児童委員ならびに地区福祉委員ご本人が回答してください。なお、お名前をご記入いただく必要はありません。（両方に従事されている方は、調査用紙1冊にまとめて回答を記入いただき提出してください。）
2. 各質問には、令和3年8月末日現在の状況でお答えください。
3. 質問への回答方法は、あてはまる番号に○をつけるものや、記入欄に直接記入いただくものがあります。質問によっては選んでいただく数を「1つ」「3つ以内」などと指定しています。また、回答者全員への質問と民生委員・児童委員の方または地区福祉委員の方のみへの質問がありますので、質問文をよく読んで回答してください。
4. 記入が終わりましたら、令和3年10月29日（金）までに返信用封筒に入れて投函してください。
5. この調査に関する質問などは、下記にお問い合わせください。

平日8:45～17:15（土・日・祝は除く）

池田市社会福祉協議会 担当：茂籠（もろ）・貝原

電話：072-751-0421 FAX：072-753-3444

メール：chiiki@i-shakyo.or.jp

【問１】 あなたのことについて、（１）から（７）のそれぞれにあてはまるものを選んで番号に○をつけてください。

(1) 性 別	1 男性	2 女性	3 その他
(2) 年 齢	1 20歳代 4 50歳代 7 80歳代	2 30歳代 5 60歳代 8 90歳代以上	3 40歳代 6 70歳代
(3) 職 業	1 正規の職員・従業員 3 パート・アルバイト 5 家事専業 7 無職	2 契約社員や派遣社員 4 自営業およびその家族従業員 6 学生 8 その他（ ）	
(4) 一緒にお住まいの方	1 ひとり暮らし 3 二世帯（親と子） 5 兄弟・姉妹	2 夫婦のみ 4 三世帯（親と子と孫） 6 その他（ ）	
(5) お住まいの小学校区	1 池田校区 3 細郷校区（旧伏尾台） 5 秦野校区 7 神田校区 9 北豊島校区 11 石橋校区	2 五月丘校区 4 細郷校区（旧細河） 6 呉服校区 8 緑丘校区 10 石橋南校区	
(6) 住居形態	1 一戸建ての持ち家 3 民間借家・賃貸マンション・アパート 5 社宅・寮	2 分譲マンション 4 市営・府営の賃貸住宅 6 その他（ ）	
(7) 現在の地域での居住年数	1 生まれてからずっと 3 3年以上 10年未満 5 20年以上	2 3年未満 4 10年以上 20年未満	

【問２】 あなたが従事している活動は、民生委員・児童委員と地区福祉委員会のどちらですか。あてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。

1 民生委員・児童委員の活動	2 地区福祉委員会の活動
3 両方の活動	

【問3】 あなたは、民生委員・児童委員、地区福祉委員会の活動を何年されていますか。
経験年数を記入してください。（両方の活動をされている方は、それぞれについて記入してください）

民生委員・児童委員の活動 () 年

地区福祉委員会の活動 () 年

【問4】 あなたの世帯は、自治会・町内会に加入していますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 加入している
- 2 住んでいる地域に自治会・町内会はあるが加入していない
- 3 住んでいる地域に自治会・町内会がない

【問5】 あなたは、民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動以外に、現在どのような地域活動、ボランティア活動に参加されていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1 自治会・町内会 | 2 婦人会 | 3 自主防災会 |
| 4 友愛クラブ（老人クラブ） | 5 子ども会 | 6 PTA 活動 |
| 7 ボーイスカウト・ガールスカウト | 8 青少年指導委員 | |
| 9 保護司会・更生保護女性会 | 10 スポーツ団体 | |
| 11 地域コミュニティ推進協議会 | 12 ボランティアグループ | |
| 13 個人ボランティア | 14 NPO 法人の活動 | 15 NGO の活動 |
| 16 特になし | 17 その他 () | |

【問6】 民生委員・児童委員、地区福祉委員の活動を始めた動機は何ですか？一番近いものを1つだけ選んで○をつけてください。（両方の活動をされている方は、それぞれについて記入してください）

		民生委員・ 児童委員	地区福祉 委員
1	地域や他者のために役に立ちたいから		
2	自分の能力や経験を生かしたいから		
3	生きがいにしたいから		
4	余暇を有効に使いたいから		
5	活動に興味があったから		
6	福祉問題が身近にあったから		
7	人からすすめられて		
8	自治会や関係団体で選ばれたから		
9	頼まれて断れなかったから		
10	ただなんとなく		
11	以前、地域の人にお世話になったから		
12	今後、地域の人にお世話になるかもしれないから		
13	その他（ ）		

【問7】 民生委員・児童委員、地区福祉委員になった感想を、次の中から3つ以内を選び番号に○をつけてください。

1	ご近所のつながりができた	2	地域について考えるようになった
3	やりがいを感じるようになった	4	健康に良いと感じるようになった
5	福祉についての理解が深まった	6	人間関係がわずらわしいと感じた
7	肉体的に負担があると感じた	8	時間的に負担があると感じた
9	経済的に負担があると感じた	10	福祉に疑問を感じた
11	その他（ ）		

【問 8】 あなたは、地区福祉委員会はどのような活動をする団体だと思いますか。次の中から3つ以内で選び、番号に○をつけてください。

- 1 子ども・高齢者・障がい者を主な対象に、福祉活動に取り組む団体
- 2 分野にかかわらず、支援が必要な人を対象に、福祉活動に取り組む団体
- 3 防犯・防災・環境などのまちづくり全般に取り組む団体
- 4 支援が必要な人を対象に、簡単な家事援助など日常生活の支援をする団体
- 5 支援が必要な人を対象に、見守り声かけを行う団体
- 6 ご近所同士のつながりをつくる団体
- 7 福祉のこころや意識を育てる団体
- 8 地域の困りごとを発見する団体
- 9 地域の困りごとを解決する団体
- 10 その他（ ）

【問 9】（民生委員・児童委員の方にお聞きします）

民生委員・児童委員の活動で大変なこと、または困っていることは何ですか。次の中から3つ以内で選び、番号に○をつけてください。

- 1 担当件数が多いなど、忙しすぎる
- 2 仕事や家庭と民生委員・児童委員活動の両立が難しい
- 3 個別のケースにどこまで関わればいいかがわからない
- 4 関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い
- 5 支援が必要な対象者に拒否される
- 6 支援対象者の家族の理解・協力が得られない
- 7 地域の理解・協力が得られない
- 8 募金活動などの活動が負担になる
- 9 行政の支援が不十分
- 10 関係機関（社協・地域包括支援センターなど）の支援が不十分
- 11 行政から必要な個人情報提供されない
- 12 活動に関する経費が負担になる

- 13 福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい
- 14 委員同士の人間関係が円滑でない
- 15 特に大変なこと・困ったことはない
- 16 その他（ ）

【問 10】（民生委員・児童委員の方にお聞きします）

民生委員・児童委員の活動をしやすくするには、何が必要と思いますか。次の中から3つ以内で選び、番号に○をつけてください。

- 1 研修の充実
- 2 活動、相談に役立つ福祉制度や事例などの情報提供
- 3 行政からの必要な個人情報の提供
- 4 活動費の充実
- 5 民生委員・児童委員活動に対する地域の理解促進
- 6 行政の助言・相談支援などのサポート体制の充実
- 7 社協からの支援体制の充実
- 8 地区福祉委員会との連携
- 9 自治会・町内会などの地域団体との連携
- 10 地域コミュニティ推進協議会との連携
- 11 民生委員・児童委員協議会の活動の充実
- 12 民生委員・児童委員同士の交流・情報交換
- 13 その他（ ）

【問 11】（地区福祉委員の方にお聞きします）

地区福祉委員会の活動で大変なこと、または困っていることは何ですか。次の中から3つ以内を選び、番号に○をつけてください。

- 1 サロンなどの行事が多く、忙しい
- 2 仕事や家庭と地区福祉委員会活動の両立が難しい
- 3 個別のケースにどこまで関わればいいのか分からない
- 4 関わるケースが複雑多様（深刻）で対応に苦慮することが多い
- 5 支援が必要な対象者に拒否される
- 6 支援対象者の家族の理解・協力が得られない
- 7 地域の理解・協力が得られない
- 8 社協業務・募金活動などの活動が負担になる
- 9 社協の支援が不十分
- 10 関係機関（行政・地域包括支援センターなど）の支援が不十分
- 11 行政・社協から必要な個人情報提供されない
- 12 活動に関する経費が負担になる
- 13 福祉制度などの情報入手・理解がむずかしい
- 14 地区福祉委員会内の人間関係が円滑でない
- 15 特に大変なこと・困ったことはない
- 16 その他（ ）

【問 12】（地区福祉委員の方にお聞きします）

地区福祉委員会の活動をしやすくするには、何が必要と思いますか。次の中から3つ以内で選び、番号に○をつけてください。

- 1 研修の充実
- 2 組織体制の整備・刷新
- 3 活動のマンネリ化防止
- 4 地区福祉委員会内の情報交換・話し合いなどの合意形成の促進
- 5 地域課題や地域住民のニーズを把握

- 6 行政からの必要な個人情報の提供
- 7 地区福祉委員会活動に対する地域の理解促進
- 8 地区福祉委員のなり手・協力者の増加
- 9 活動費の充実
- 10 社協の助言・相談支援などのサポート体制の充実
- 11 行政からの支援体制の充実
- 12 民生委員・児童委員協議会との連携
- 13 関係機関（行政・地域包括支援センターなど）との連携強化
- 14 自治会・町内会などの地域団体との連携
- 15 地域コミュニティ推進協議会との連携
- 16 その他（ ）

（以降はすべての方にお聞きします）

【問 13】 あなたの担当地域の中で課題に感じることは何ですか。次の中からあてはまるものすべてを選び番号に○をつけてください。

- 1 困ったときにすぐに相談できる人がいない
- 2 近所づきあいが少なくなっている
- 3 自治会・町内会に加入する人が減っている
- 4 地域の活動が活発でない
- 5 世代間の交流が少ない
- 6 地域の中で集まれる拠点が少ない
- 7 移動手段が整っていない
- 8 災害時の安否確認体制が十分でない
- 9 治安が悪くなっている
- 10 地域から孤立している人がいる
- 11 経済的に困窮している人が増えている
- 12 サービスに結びついていない人がいる
- 13 その他（ ）

【問 14】 あなたの担当されている地域の中で、気にかかる人、見守りや支援が必要な人がいますか。次の中からあてはまるものすべてを選び番号に○をつけてください。

- 1 高齢者のみ世帯
- 2 認知症の人
- 3 障がいのある人
- 4 育児放棄や児童虐待の疑いがある世帯
- 5 高齢者等の虐待の疑いがある世帯
- 6 ひきこもりの人
- 7 生活困窮者
- 8 そのような人はいない
- 9 わからない
- 10 その他（ ）

【問 15】 あなたは、地域住民の困りごとの相談を受けたことがありますか。受けたことがある場合、どのような経路で受けましたか。あてはまるものすべてを選び番号に○をつけてください。

- 1 相談を受けたことがある 2 相談を受けたことはない



- 1 本人から
- 2 家族から
- 3 近所の人から
- 4 自治会・町内会の役員から
- 5 保育所・幼稚園・小学校・中学校から
- 6 社会福祉協議会から
- 7 地域包括支援センターから
- 8 ケアマネ事業所・障害者相談支援事業所から
- 9 民生委員・児童委員から
- 10 地区福祉委員から
- 11 その他（ ）

【問 16】 あなたは、民生委員・児童委員、地区福祉委員として困りごとを抱えている住民をどのような機会に把握することが多いですか。あてはまるものすべてを選び番号に○をつけてください。

- 1 地域団体などの会合や行事の中で把握
- 2 地区福祉委員会のサロン行事に参加している中で把握
- 3 民生委員・児童委員や地区福祉委員会などの見守り・声かけ活動の中で把握
- 4 日常生活の中で把握
- 5 今まで把握したことはない
- 6 その他（ ）

【問 17】 とともに支え合う地域づくりをすすめていくうえで、行政と社協の役割として重要なことはどのようなことだと思いますか。行政と社協それぞれにあてはまるものすべてを選んで○をつけてください。

		行政	社協
1	困ったときの相談先や福祉サービスなどの情報提供		
2	身近なところで住民どうしが相談し合える場の充実		
3	専門職による相談窓口の充実		
4	学校教育や生涯学習等での福祉教育の充実		
5	地域住民の活発な交流や相互扶助の促進		
6	地域における福祉活動の意義・重要性の啓発		
7	住民が主体となった福祉活動をすすめるための環境整備		
8	ボランティア活動を促進するための支援		
9	福祉活動をけん引する人やリーダーの育成		
10	住民が気軽に利用できる集いの場の充実		
11	誰もが暮らしやすい生活環境づくり		
12	地域住民どうしが相互に交流したり、気軽に相談したりできる場の充実		
13	地域における福祉活動の拠点整備		
14	地域における福祉活動の活動費や運営費などの資金的な援助		
15	ひきこもりの方やその家族のための支援の充実		
16	経済的に困窮している方への支援		
17	認知症の方などの権利擁護の充実		
18	その他（ ）		

【問 18】 誰もが安心して暮らせる地域づくりについて、ご意見やご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

